京城日報

十日夕刊

定價 本紙一部金二錢五厘 一ヶ月金五十五錢(郵稅共) 前金三ヶ月分二圓 六ヶ月分四圓 ▲郵券代用二割增
廣告料 ▲五號活字十六字詰壹行金八拾錢 ▲二號活字八字詰壹行金壹圓 ▲三號活字同上 ▲四號活字拾字詰壹行金貳拾錢 ▲六號活字廿一字詰金八拾錢
發行兼編輯人 奧田直毅
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社
電話 編輯局三四五番 營業局一二一番 振替貯金口座京城三〇〇番

支那の形勢

▲張勳調停案七箇條
黎總統は內諾を與ふ

張勳氏歡迎の爲總統府より派遣されたる夏壽康氏に對し張勳は調停條件七個條を提議し其の承認を得ざれば入京せずと聲明せり其の條件左の如し

(一)黎總統の地位保存(二)國會解散(三)責任內閣の實行(四)省議會の解散(五)總統府內の職員懲罰(六)新に憲法議會を組織す(七)帝政元兇の赦免

而して黎總統は之に對して內諾を與へたり(北京特電)

▲張、徐、李氏會見協議
馮副總統の督軍撤兵要求

八日張勳、徐世昌、李經羲三氏の會見に於て時局調停に關する協議圓滿に進行し茲數日內に解決さるべく調停條件は約法改正、黎總統維持、國會閉會若くば解散ならんと尚ほ馮國璋氏は最近徐世昌、段祺瑞兩氏に電報を發し來り獨立督軍に命令を下し撤兵を要求すべしと陳べ來れり(天津特電)

▲張勳氏の最後的通牒
國會を解散せざれば自由行動

天津にある張勳氏は黎總統に對し四十八時間以內に國會解散を强請し若し聞かざれば自由行動を取るべしと通告し其の承認を得るまで入京を拒絕し來れり黎總統は直に各政黨代表者と協議の結果右要求に應ぜざることに決せり(北京特電)

▲國會の解散準備か
黎總統は九日午後二時外人顧問を召集し議會解散の法理的解釋につき協議せり(北京特電)

▲張勳氏よりの國會解散要求の回答は十日迄延期され九日午後黎總統は顧問會議を開き此の問題を詳議中なり(北京特電)

▲愈々國會解散發表
黎總統は九日夜を以て議會解散令を發表すべし(北京特電)

▲三日以內に國會解散か
黎總統は三日以內に國會を解散につき發表する處あるべしと(北京特電)

▲張勳氏の入京期
九日午前張勳氏の直話として自己の要求は總統に容れられたる爲議會解散發表後入京すべしと云へりと(天津特電)

▲要求認容は非公式
張勳氏が全部其の要求を黎總統に容れられたりと云ふは非公式のものなり(北京特電)

◎東京商議會頭
阪谷男就任乎

東京商業會議所會頭に推薦されたる添田壽一氏は四圍の事情上已むを得ず之を辭退し結局阪谷芳郞男の就任を見るべしとの說あり(東京電報)

◎兩博士通過
歐洲より歸朝の工學博士男爵柴忠三郞及今村鐵學博士の兩氏は九日夜京漆線列車にて出發せり(奉天特電)

附記 同博士は十日午後七時十分南大門驛入京朝鮮ホテルに投せり

◎宮入博士通過
來鮮中なりし京都醫科大學教授醫學博士宮入慶太郞氏は九日夜釜山出港關釜連絡船さくら丸にて歸京せり(釜山特電)

◎東淸鐵道技師
東淸鐵道技師オット氏は九日夜入港關釜連絡船壹岐丸にて釜山に上陸同十一時發北行列車にて長春に向へり(釜山特電)

◎兩將軍歸任
李王殿下長谷川總督の東上を釜山に見送れる秋山軍司令官古海警務總長の兩氏は十日朝歸京せり

◎主要局長召集
遞信局にては長官の更迭に伴ない主なる地方郵便局長及び技師を本局に召集し十日より事務の打合せをなす事となり八日附通牒を發したるが參集局長は服部京城、志賀釜山、若森元山、八木平壤、市來仁川、藤原淸津、楢川大邱、成田南浦、大谷群山、齋藤木浦外各局在勤技師二名なり

◎次は商議改選
京城商業會議所評議員の改選期は來る十二月十五日執行の事となり居れるが九日終了せし學校組合會議員の選擧熱の烈しかりしより會議所議員の改選亦競爭の猛烈ならん事を豫期し既に新顏候補者として出づべき野心ある某々氏等は內密に畫策を初め居れりと傳へらる

◎朝郵も運賃引上
日郵、大阪商船、尼光尼崎の四社が聯合の上內地朝鮮間の貨物運賃を七月一日より約二割方引上ぐる事となりし事は既報の如きが朝鮮郵船會社も頗る低廉なる內鮮間並に朝鮮各港間の現行運賃を認可率の批に於て若干引上ぐべき內議あり夫々研究中の由傳へらる

◎朝鮮地價漸騰
內地資本家の朝鮮土地投資傾向等に伴ない幾何か上向き傾向を呈しつつある朝鮮の水田並に畑の地價は最近の米豆一齊高に伴び更に昂騰を來し居る由にて昨今の賣情は買手より賣主の腰强く商談の成立困難のものの如けれど南鮮方面には實質の取引少なからざる由

□李王御消息
神田秘書官發電

九日夜著電總督に隨行東上せる神田秘書官より山縣政務總監宛左の電報到達したり

李王殿下は九日午後七時無事下關に御上陸せらる天氣稍曇りたれども海上穩かなりしを以て御機嫌至て宜しく多くは總督と共に上甲板にて砲の操縱供奉驅逐艦の演習等を御覽あり軍樂隊の奏樂其他船員の諸遊技等御感興を惹くこと尠からず愉快なる航海を續けられたり下關に於ける歡迎は甚だ盛にして殿下も滿足の御模樣なり

◎支那鐵道安全
各省督軍が獨立を宣言せると同時に自己の管內にある鐵道收入を差押へたるため運輸に支障を生じたる如く取沙汰せらるるも京奉京漢津浦等の大鐵道は異狀なく運轉し交通安全なる由なり

◎連絡露貨下落
日滿聯絡貨物の朝鮮鐵道著の場合に於ける引換代金換算率は本年二月以降露貨百留に就き一貨五十八圓なりしが六月九日以降は五十五圓二十六錢に變更されたり

◎滑石採取許可
咸鏡北道端川郡廣泉面東古里の山地には從來製紙原料として必要なる滑石の產出多かりしが這般城津本町森下茂豊氏の出願に依り本年六月より向ふ三箇年間を期間として右製紙原料滑石三千切の採取其筋より許可ありたり

◎富川郡の旱害
仁川の隣郡なる富川郡內の蛇川堤官廳里素砂富平等を視察し來れる仁川署警部の談に依れば同方面は旱魃の爲め結實季に入りたる麥作は殆んど收穫の見返無き迄に旱害を被り稻苗は富平邑內に於て多少見込みあるのみにて他の方面にては既に河川枯渴し河川中に井戶を穿つて漸く給水しつゝ有るも此れとて意の如くならず爲めに苗代約三分の一の旱害にて今後十日餘も降雨あらざる時は絕望の外なしと畑地は地表より約十尺五寸位迄は乾燥し居る者の如く濕氣を要する農作物の發育は阻害され農民は非常の恐慌を惹起し居れり富川郡守は旱害の程度甚しきを以て殆んど寢食を忘れ居るの有樣なるが河水枯渴せし現狀にては人力を以て如何ともなす能はず憂慮し居れり農民は未だ雨乞をなさゞれども數日を經過して降雨無き場合は弗々雨乞をなす地方もある可し(仁川)

◎兵營工事現況
大田聯隊の增築工事は總工費金十六萬圓にして其の建築物は第一第二中隊兵舍、醫務室、休養室、大隊本部、被服庫、炊事場二個の洗面洗濯所、下士集會所、酒保、將校集會所及び將校合宿官舍等なるが將校集會所以下は漸く地均しを終り目下地割中にして八日より基礎工事に著手す爾餘の建造物基礎工事も漸次進捗し建物の工事に著手せり現在の職工は每日大工木挽、石工等約六十名鮮人夫百二三十名位にして兵營附近は遽かに活氣を呈し居れり(大田)

◎豆滿流材增加
營林廠の豆滿江材筏流は五月下旬より開始され二十二日初めて會寧に著筏ありたる以來續々流下しつゝあるが本年の流筏豫想額は約四萬尺締にして之を前年の一萬五千尺なりしに比すれば著しき增加なるが營林廠に於ては年々其流筏額を增加し二三年の後には每年十萬尺締を出すべき方針なりと云ふ而して營林廠にては昨年迄豆滿江口に流下せし筏を本年よりは全部會寧にて止むる事となりたるが此結果西水羅に在る同出張所は撤廢さるるに至るべしと尙ほ本年會寧に揚陸すべき木材は營林廠と契約者三井に於て之を同地に於て製材し一部は地方の需要に供し他は淸會線開通を俟つて淸津に搬出し各地方の需要に應ずべしと(淸津)

◎咸北豆產增加
咸北道にては一昨年來大豆品種の改善を計る爲め種子粒選勵行を爲し之れが手段方法を指示し面長或は洞長を勵行委員に擧げ種子粒選檢查を施行し合格種子は檢查證を授け不合格種には再選を命じ府郡廳員及び農業技術員は間斷なく巡回指導に任ずる等熱務官憲と共同極力勵行に努たる結果收量は一割を增加するに至り品質又佳良にして價格一割高を唱ふるに至れりは琿春市場に於ける局子街、龍井村、豆滿江沿岸に於ても粒選獎勵の結果大豆等に比し總城大豆の品質遙に優越し聲價に加はりて大正五年度に於ける粒選種子數量は粒選種子數量一萬四千三百六十石同作付反別三萬八町收穫高十五萬八千八百五十七石なり(淸津)

◎淸津近海鯖漁
淸津近海の鯖漁は昨今漸く其期に入り本月三日二三百尾の水揚ありたる以來日々多少の漁獲あり之を昨年に比するに約一週間を遲延せり而して本年は梨津以北に鯖巾著網の制限を爲し定數三十統となるべく內定せるも目下確定せるは鮮人が雄基五、黃魚浦一、西水羅一、合計七統にして內地人にては母國よりの入漁四、淸津三、西水羅一合計八統にして制限數の半數なれば猶出願の餘地あるべきも他道よりの入漁は之を許可せざる方針なれば例年の如く元山方面より入漁せんとするものあるべきも絕對に許可せられざるべしと(淸津)

◎藤田軍醫總監通過
藤田陸軍々醫總監は木浦方面巡視中の處九日午後十時四十五分著列車にて大田に來り終列車にて南行東上の途に就きしが驛には醫師會其他の見送りありたり(大田)

◎ハリス博士講演
日本メソヂスト教會監督神學博士ハリス氏は同傳道局長石阪龜治氏と共に九日朝入港連絡船さくら丸にて來鮮九、十日兩日午前八時三十分より大講演會を開催せり(釜山)

=鎭南浦=
▲海老名氏講演 同氏は七日平壤より來南同夜花山座に於て『世界の進運と基督教』なる題下に一場の講演を試みたるが有志は三和花園に於て八日氏の爲に晚餐會を開催せり▲鑑定價格變更 十六日より實施の重要品鑑定價格は小麥七五、〇大豆七、〇八並七、六一小豆八、二三荏子五、六牛皮六五、六〇〇也▲五月中貿易 客月中の貿易額は輸移出百四十八萬圓にして前年同月に比し五十八萬圓前月に比し卅二萬圓の增加なるが這は主として穀物界の活況に伴るものにして含金銀粗銅の十萬圓增等又與つて有力なり移輸入總額は八十七萬圓を算し是又前年同月より五十一萬圓前月より二十四萬圓の增加なるが其原因は熱鐵、鐵、軌條、諸機械類、セメント等の三菱製鐵所用品續々著荷せるを主なるものとし製鍊所向の銅鑛に於て前月より十一萬圓を增したるが如き又逸す可らず目立ちて前月より減じたるものは爆發物の三萬五千圓減を最なるものとし其他一二を數ふるに過ぎず斯くて本年に於ける總貿易累額は五百六十七萬圓に達し前年に比し約二百萬圓の增加を示したり

=元山=
▲學校組合會初開期 曩きに選良せる當地學校組合會議員中石和房治氏辭任申出でありたるに就き次點者藤井大吉氏の諾否に就き組合より豫め內意を叩きたる處氏は之を享け愈々就任の事に決したれば之にて議員は全部の顏揃ひとなりたる譯にて初會議も兩三日中に開會の筈なりしが組合にては目下組合法規の印刷中にあれど聊か時を遲延し來る十四日頃開會を見るならんと云ふ▲近海本年の鯖漁 每年鯖漁の豐不漁は軈て北鮮經濟界に影響甚しきを以て之が從業者及び資本主は漁期となるや血眼の體なるが昨年の不漁に反し本年は五月中旬頃より弗々該漁の水揚けを見月末頃に至つては既に七十萬尾の水揚げありしもの最近二三日兩日の三十五萬餘尾と六日の五十萬尾の大漁其他を累計せば優に百七十萬尾の水揚を爲し居れり沖漁に於ても相當の漁獲ある由なるが之等は全部下關山神組其他の魚類運送船に依り內地へ搬送され居る模樣なり相場に至つては最初一尾十四錢を唱へ居たるもの昨今にては一錢七八厘見當の由なり▲菊池氏と金剛山 金剛山探勝の目的を以て當地に寄元せる菊池幽芳氏は一昨六日著元其夜は金剛山に關する材料の蒐集に努め翌午前十時出帆の汽船にて其途に就きたるが氏は語るらく雄大なる天下の奇勝金剛山を書かむとするに到底形容詞に由つて之を現はさむは大名文家に非らざる限り至難の事なり余は今度之を書かむとするに當り特殊の方法に據らんことを期すと云々と▲本田博士動靜 昨七日夕著元の總督府勸業模範場所長本田博士は著後大東館に入り一泊の上今朝永興に向ひ歸途德源支場を視察し午後四時頃歸元の筈なり

=淸津=
▲准尉任用試驗 下士官帥路開拓の爲め新設されたる准尉任用試驗は羅南にては本月四日より五日間旅團司令部に於て試驗委員は中谷少佐以下四名の委員に依り施行されたるが羅南七十三聯隊より九名咸興七十四聯隊より五名の受驗者ありたり▲淸津上水道起工期 淸津上水道起工式は本月三日擧行の豫定なりしも鐵材暴騰の爲め豫算に不足を生じ本府に於て更に精查する事となりたる結果同起工式は延期の已むなきに至りたるも本府に於ては既定豫算額十四萬圓にて出來得る樣設計を縮少し許可の方針なれば近く許可の運に至らん▲觀察團解散式 間島鮮人の京城觀光團は五月三十日淸津歸著淸津にて解散式を行ひ故國思ひ/\に親戚故舊訪問に便せしが大部分は三十一日淸津出發歸鄉の途に就けり▲淸津現在戶口 淸津港現在戶口は內地人八百七十二戶三千二百九十二人朝鮮人九百七戶四千四百六十八人支那人三十七戶百八十五人外國人一戶三人計一千八百七戶七千九百四十八人にして內鮮人共漸次增加の趨勢に在り▲英國中佐視察 英國武官ソマービール中佐は五月三十日淸津上陸一泊三十一日羅南に到り翌一日軍營を視察し二日羅南發會寧に赴き同地軍營を視察して四日歸淸六日迄滯在六日南航の立神丸にて元山に向け出發せり▲岡本檢事正視察 咸興地方法院檢事正岡本至德氏は間島及び越境豆滿江沿岸視察の爲め五月三十一日來淸一日間島に向け出發せるが同檢事正今回の視察は鮮內に於て犯罪を爲し間島に逃走せるものゝ檢擧に就ての用件なりと

=大田=
▲大田の春繭 大田郡內に於ける本年春繭の收入豫想は二百二十二石なりと因みに今年の收繭は頗る佳良にして價格も相當高價に取引行はれつゝありと▲鐵道病院病室落成 豫ねて改築工事中なりし大田鐵道病院の病室は此程漸く竣工したる由なるが改築後の病室は特に採光通風に意を注ぎたるものなりと▲醫師會延期 大田醫師會は十日頃開催の豫定なりしも會員の都合に依り來る十六日夜開會する事に決定したる由▲大田の出席者 忠淸南道上林長官は指宿勸業主任を隨へ十日午前鳥致院に到り同道內各穀物業者及び米穀檢查所主任との協議會開催に付大田よりは若林茂、今井辰次郞、鶴川伊兵衛、大野與三郞の當業者及び田中大田商業協會書記長、國元米穀檢查所主任等列席同日歸田せり▲吉元驛長出張 大田釜山間及び馬山線各驛々長會議列席の爲め吉元大田驛長は十日午前五時四十分發列車にて大邱へ出張同日終列車にて歸任せり▲新驛敷地埋立 大田新驛舍敷地埋立工事は引續き土砂其他の材料蒐集中なりしが十日より工事に著手せり

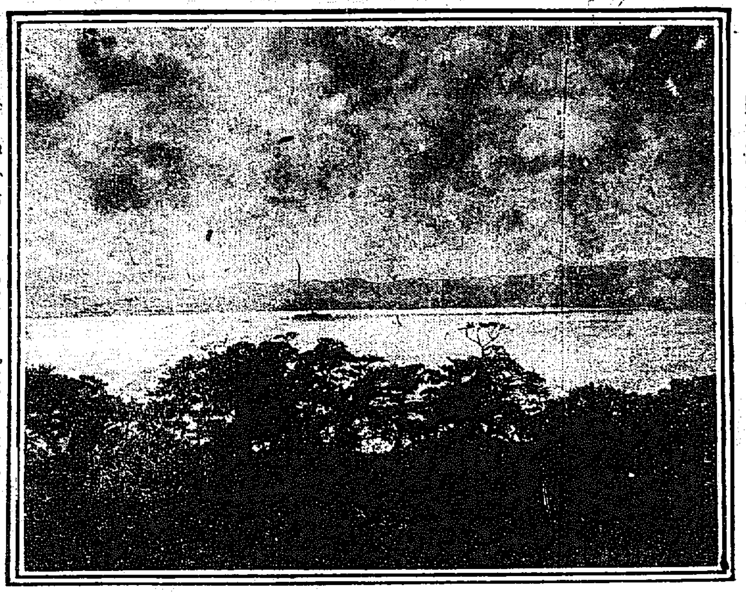
=鳥致院=
▲金久保少將 旅團幹部演習現地調查の爲め去る一日より鳥致院淸州陰城方面に亙り地理實查中なりし第四十旅團長金久保少將は副官を從へ八日午後三時淸州より來著明治旅館に投宿し九日午前十一時半發南行列車にて歸任の筈▲上林道長官 李王殿下及長谷川總督の東上を迎送の爲め出張せし上林忠南道長官は豫定を變更し九日午前八時半著列車にて大田より來り午後七時發自動車にて歸任

=光州=
▲光州署檢閱 警務部長は八日馬場警部補井上主計警部補以下を隨へ光州署に到り操練捕繩術服裝其他の檢閱を行ひ午後より書類を閱し擊劍を視たる後引揚たり▲學校生徒增加 本年度に至り本道學校及び生徒數に激增を來したるが目下の調查に依る小學校四十校生徒二千九百九十八人普通學校三十四校五千九百二十七人にして此外簡易水產學校實科商業女學校の新設さるゝあり合計學校の增したるもの十三校生徒千八百二人を增加したり▲家屋稅徵收狀況 本道家屋稅は調定額八千二百十三圓なるが五月末納期迄に納付したるもの七千九百十五圓にて全調定額の九割八分四厘に當り目下滯納者に對しては處分斷行中なりと▲衛生狀態良好 光州に於ける目下の衛生狀態は良好なるが僅かにハシカの流行を見る位にして傳染病としては他に發生せしもの無し

=木浦=
▲五月中木浦出入船舶 先月中木浦港出入船舶は入港外國貿易汽船六隻內地貿易船二十七隻內西洋形帆船三隻日本形帆船一計三十一隻此噸數一萬千六百七十四噸出港外國貿易船五隻內地貿易船二十八隻西洋形帆船四隻日本形帆船五隻計三十七隻此噸數一萬二千零十七噸なりと▲內鮮人往來 先月中木浦旅館に投宿せし人員は內地人七百四十名にて出發八百七名鮮人にては宿泊千三百六十五名出發千三百八十九名又船便にて著木せしは日本より百三十九名朝鮮各地より二千五百十一名其他より三名なりし▲木浦驛 客車收入六千百二十三圓四十二錢の內乘客四千五百三十八人此賃金五千四百九十四圓八十七錢降客四千五百四內入場券販賣數二千六百六十三枚、貨車收入五千四百九十三圓三十五錢貨物發送千三百五十七噸同到著九百六十六噸引込線扱發送七百五十二噸同到著七百零五噸小荷物發送三萬四千四百九十四斤到著一萬一千百五十三斤なり

人事消息
（十一日）

▲松原倉藏氏(西本願寺朝鮮布敎總長) 十一日午後九時南大門驛著歸京
▲釋尾春仍氏(朝鮮雜誌社長) 十日朝鎭南浦へ
▲安田弘氏(朝鮮銀行理事) 九日夜釜山出港さくら丸にて東上
▲今村新吾氏(醫學博士) 十日夜入京の筈
▲服部警務部長 九日午後一時より歸任
▲奧田參與官 九日夜東上
▲奈良總務局二十名 九日夜平壤へ
▲李海昇侯▲李容植子▲閔泳徽子▲任善準子▲李完用伯▲閔丙奭男▲閔泳瑞男▲二木鐵道局理事以上九日午後九時釜山より歸京
▲趙重應子 十日午前同上
▲京城高等普通學校生徒六十五名 十日朝[illegible]へ
▲堀部長中尉(咸北警務部副官) 九日夜入京
▲本田博士(水原模範場長) 九日夜元山より入京
▲長澤鼎氏(米國農業家) 同上
▲スタール博士(米國大學教授) 九日夜入京
▲普成學校生徒九十七名 開城より歸京



李王御一泊の舞子の濱の風色

皇禮砲の響 關門の天地を震撼す

李王殿下の關御出發

李王殿下には十日午前六時御宿所たる春帆樓を御發、前日御上陸遊ばされたる大吉樓下特設棧橋より御召艇

◆神風丸に御乘船◆

遊ばされたるが同所には海軍水兵諸列して奉送し御召艇は六時十分發途中富士、肥前二艦は御通過の際孰れも發舷禮を爲し奉送申上げ同二十三分下關棧橋に御著同所にて海軍將校多數と陸海軍兵士並に各學校生徒の堵列奉迎するあり殿下には海軍の樂隊陸軍の喇叭吹奏中に御上陸步廊を御徒步にて

◆直ちに特別列車◆

に御乘車遊ばされたるが聽て六時三十分豫定の如く御發車港內碇泊の二艦並に壇の浦の重砲兵隊より爽々射ち出す皇禮砲の響は殷々として關門の天地を震撼せり殿下には柴第十二師團長井上要塞司令官山口、福岡兩縣知事代理關門兩市長其他多數の見送を受け長谷川總督伊藤式部次長等陪乘舞子へ向はせられたり尚ほ前夜港內碇泊の御召艦肥前警備艦富士は電飾を點じ又右

◆二艦並に供奉艦◆

村雨朝霧二艦より發する探海燈は寳に壯觀美觀を呈し殿下には頗る興がらせたる由猶ほ關門兩市民は海岸に出で海上の美觀を見物し海岸一帶人を以て埋められたり(下關特電)

肥前艦上の李王殿下

甲板上の餘興に旅情を慰められつゝ 更に御疲勞の模樣無し

九日は夜來の小雨も歇みて降らず照らずの好日和李王殿下には午前八時卅分稅關ランチより皇族旗を翻へせる艦載小蒸汽船に御便乘殷々として

▽釜山灣に 響き渡る二十一發の禮砲の裡に御乘艦肥前の右舷々門に御著あり之より先き御召艇が肥前側近く進み來るや皇族に對する海軍公式禮法に依りて總員奉迎の位置に就きて萬歲を三唱し殿下の

▽第一步が 舷門に入らせらるゝや軍樂隊は君ケ代を吹奏して奉迎したり殿下御著艦に先ちて肥前に到著し居たる長谷川總督は秋山軍司令官古海警務總長等の御見送者と共に後部甲板に殿下を迎へ直ちに勝木艦長の御先導にて

▽御居間に 充てたる將官室に御案內申上げたり此所にて李堈公殿下の御見送を受けさせられ引續き肥前の士官以上を御引見あらせられ小憩の後後部甲板に御立出で相成安樂椅子に倚りて總督を始め陪隨の諸員を御相手に釜山灣內の

▽御展望に 御餘念無き間に八時四十五分ともなれば艦は辷るが如く進行を始めたり第十八驅逐隊村雨、朝霧の二艦は警衞として從へり釜山灣口を出でたる頃より海風寒きを覺ゆるより近侍は御居間に御案內申上げたり前日は汽車の事なれば御疲りもあらせられざりしも玄界洋の航海は

▽如何かと 一同案じたるが釜山沖一時間程の難所に差蒐りたる頃殿下は御居間にありて近侍の人々に對し何の動搖も無きが之にても船は進行しつゝありやと仰せられたり之に依りても殿下御機嫌の程を略御察し申上ぐるに足るも更に艦中の御中食の如きは

▽寧ろ平素 よりも食慾進ませられし御模樣にて多分に召上がられ近侍を驚かさせ給へり午後は二時頃より甲板に出でらるゝ筈にて諸員其準備を爲しつゝありたるに中食後間も無く御出掛けあり驅逐艇の襲擊運動後部十二吋主砲の操縱水兵の相撲軍樂隊鹿兒島名物棒踊等の餘興に

▽御旅情を 慰められ此間長谷川總督絕えず御側に在りて通譯を介し御說明申上げ女官八名共常に殿下の後方に侍して餘興を觀覽し居たり肥前にては此日機關部の外全部教練及び作業を休みて殿下御一行の爲め御待遇に當りたり尚釜山に於ける殿下の

▽御起居に 就き事務官玄百運氏は肥前艦上にて記者に語りて曰く『殿下には八日夜ホテルに御著後朝鮮料理の御夕食を執られ食後は近侍を御相手に軍艦の電飾、探海燈を御覽ありて御談笑の後十時御就寢夜中は何事も無く

▽九日朝は 四時に御起床ありて近侍の人々を呼び起し荷物其他出發準備の御指圖あり何等前日の御疲れの模樣もなく九日は前日にも增したる御元氣にて一日談話、展望餘興見物に御暮し遊ばされし次第なり八日京城御出發以來の御模樣は時々德壽宮殿下、昌德宮妃殿下、東京の王世子殿下に

▽電報にて 御報知申し上げ九日も無線電信にて御航海中の模樣を前記各宮に御通知申したり』(肥前にて記す山崎特派員發電)

□關門の夜景を賞せられつゝ

近侍の諸員を御相手に樂しき御物語

李王殿下には九日午後七時御旅館春帆樓に御著あるや少憩の後御夜食を執られ

▽御料理は 前日先發にて到著せる典膳職員調進にて朝鮮料理を召されたり殿下の御居間には奧の三階全部を充て特別御昇降の階段には特に玄關より三階迄花形絨氈を敷き

▽御居間に 其次ぎの十疊の間を至密內人更に一間を隔てたる一室を李武官の詰所に充てたり殿下は六疊の間の次の寢室に次ぐ十二疊の間には椅子卓子を備へて前日來長途の御旅行にも些の御疲勞の模樣なし夜食の後は近侍の諸員を御相手に關門の夜景を御覽ありつゝ此日一日の航海に就きて御物語り等ありて十時御就寢馴れぬ旅路の

▽御宿りに も拘らず夜中は早暁の外御熟睡翌十日午前四時には早くも御目醒ありて御近侍の人々を御呼び起し御洗面を了りて前日の如く御出發準備等の御指圖あり六時には御旅館下の棧橋よりランチにて御出發十五分にて下關停車場棧橋御著驛長の御先導にて宮廷列車に御搭乘相成たり棧橋より列車

▽御移乘迄 の間は絕えず微笑を含まれて近侍の尹子爵の御說明を聞かせらるゝ御模樣に拜したり長谷川總督は殿下より先發のランチにて御待受け御挨拶申し上げたるに殿下には前日の航海の愉快にして何の疲勞も無く今日の旅行を樂しみつゝある旨御答へありたりと承る斯くて六時四十分軍樂隊の君ケ代吹奏裡に陸海軍人官民數百名の御見送りを受けつゝ御搭乘あらせられたり(下關にて山崎特派員發電)

明石海峽の島嶼を一眸の裡に

奉迎の準備成れる舞子の御旅館

李王殿下を迎へ奉る舞子は奉迎の準備全く整ひ驛前には大綠門を建て國旗翻る、御旅館

◎有栖川宮御別邸は 歌敷山の上に在り明石海峽淡路島遠く加太海峽の島嶼を一眸の裡に收む御居間は十五疊と十二疊との二室を充て別に六疊の一間を控室と爲し御一行此所に御一泊長谷川總督一行は萬龜樓に投宿す御旅館には武庫離宮より御取寄せの名器珍什にて裝飾し調査場等も設備整へり

◎最初旅館は萬龜樓 と先發者に於て取定めしに陛下の叡慮と有栖川宮家の御申出でに依り同御別邸に變更されしものにて李王家に對する御優遇の意味に外ならず兵庫縣知事內務部長憲兵隊步兵第三十九聯隊よりの儀仗兵到著し御著の際は在鄉軍人明石農業學校女子師範學校小學生及び明石紡績會社工場に勤務の

◎朝鮮女工百二十名 奉迎す可く同會社にても殿下を思ふ工女の心を汲み出來得る限りの便宜を與ふ可しと(舞子にて中谷特派員發電)

◎李王世子殿下名古屋御著

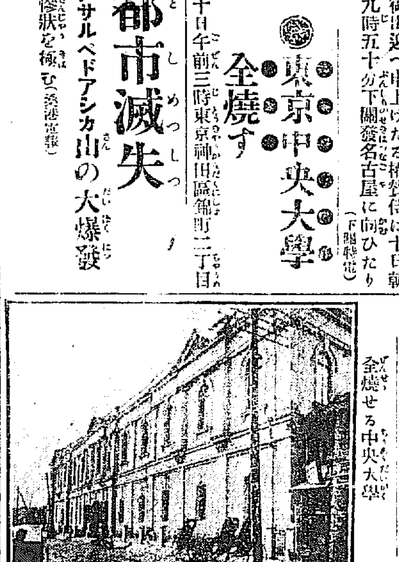
李王殿下御出迎への爲め王世子殿下には十日朝東京より名古屋に成らせられ名古屋ホテルに入らせられたり(大阪特電)

◎王世子の御使名古屋に向ふ

李王世子殿下の御使ひとして下關迄御出迎へ申上げたる權藤侍は十日朝九時五十分下關發名古屋に向ひたり(下關特電)

◎東京中央大學全燒す

十日午前三時東京神田區錦町二丁目中央大學より發火し同大學全燒五時鎭火せり附近には官公衙其他の大建築多く殊に雨中の事とて混雜非常なりしも人畜に死傷なし(東京特電)



全燒せる中央大學

◎南米六箇都市滅失

サンサルベドアシカ山の大爆發

南米サンサルベドアシカ山大爆發の爲め全滅し他の六箇都市も亦滅失し慘狀を極む(香港電報)

◎大學生を殺害した藝妓

娼妓と爲つて情夫に刺さる

八日夜十時頃釜山綠町遊廓貸座敷七福亭の娼妓お多福事東京市京橋區生れ生田うめ(二七)が馴染客なる當時釜山幸町二丁目下宿屋九州館止宿姬路市城東町生れ市本福松(三一)の爲めナイフを以て第二肋骨右線に刺傷を受けたり加害者は鄕里姬路市の資産家市本次郞松の長男にして昨年

◎少なからぬ資本を 攜へて來釜し牛馬の賣買傍ら西町二丁目に牛肉店を開業したる當時より綠町遊廓に通ひ出しお多福の許に足繁く入浸りし爲め間もなく商業の資本を費ひ盡し遂に此程閉店したるより前記の九州館に下宿し居れるものなるがお多福は福松が現在の撈過と生來酒癖甚しき爲めに愛想盡かしの氣味にて近頃は以前の如く好遇せぬ樣になりしを福松も癡み根性を出し同夜も宵の程より登樓してお多福を相手に一時間餘遊興して部屋に入り

◎鏡臺の抽斗より お多福と母親の二人の寫眞を取り出して其れへナイフにてお多福の面部を刺したるよりお多福は母親と記念の爲めに寫したるものを傷付けられてはと血相を變へて奪ひ取らんとせるより福松は憤慨と平素の無念とにて攜へ居れるナイフをお多福の胸に差し付け脅かして見んとせしに泥醉せる爲めお多福に負傷せしめたるに福松も驚き自分も其場にて自殺せんとせしよりお多福も吃驚してナイフを奪ひ取り騷を立てしより樓內の騷ぎとなり加害者福松は

◎同夜十二時過ぎ 其場に於て警官の爲めに取押へられ釜山署に引致取調べ中なり被害者お多福は輕傷にて一週間も經過せば全癒すべしと云へるが被害者お多福事なめは去る明治四十三年四月東京市外淀橋町柏木に於て早稻田大學生平田喜滋と云へる情夫を殺害し學生殺しとして一時評判高かりしが花井博士其他の辯護にて四十四年二月東京地方裁判所にて懲役一年六箇月に處せられたる相州小田原料理店三つ本の藝妓鹿の子が流れ流れて遂に綠町の娼妓となり果居たる者なりとの噂なり(山崎)

◎竹彌島太夫來る

釜山に滯在中なりし大阪因會の古老竹本彌島太夫は京仁兩地見物旁々九日夜入京し黃金町知巳の宅に滯在し居れるが暫く足を止むる由

今回京城學校組合議員選擧に際しては多大の御同情を賜はり御援助の結果多數を以て當選仕り候段難有奉感謝候此段以紙上不取敢各位へ謹告仕候也

大正六年六月十日　高木壽

今回京城學校組合議員選擧に際しては多大の御同情を賜はり御援助の結果多數を以て當選仕り候段難有奉感謝候此段以紙上不取敢各位へ謹告仕候也

大正六年六月十日　大和與次郞

有權者諸賢の御同情に依り京城學校組合會議員に當選の榮を得候段誠に感謝の至りに不堪候不取敢以紙上御禮申上候　敬具

大正六年六月十日　小杉謹八

小生義今般京城學校組合議員として有權者諸賢の御推薦に預り幸に多數を以て當選仕り候段誠に感荷の至りに不堪候先は不取敢以紙上感謝の意を表し候　敬具

大正六年六月十日　河村千治郞

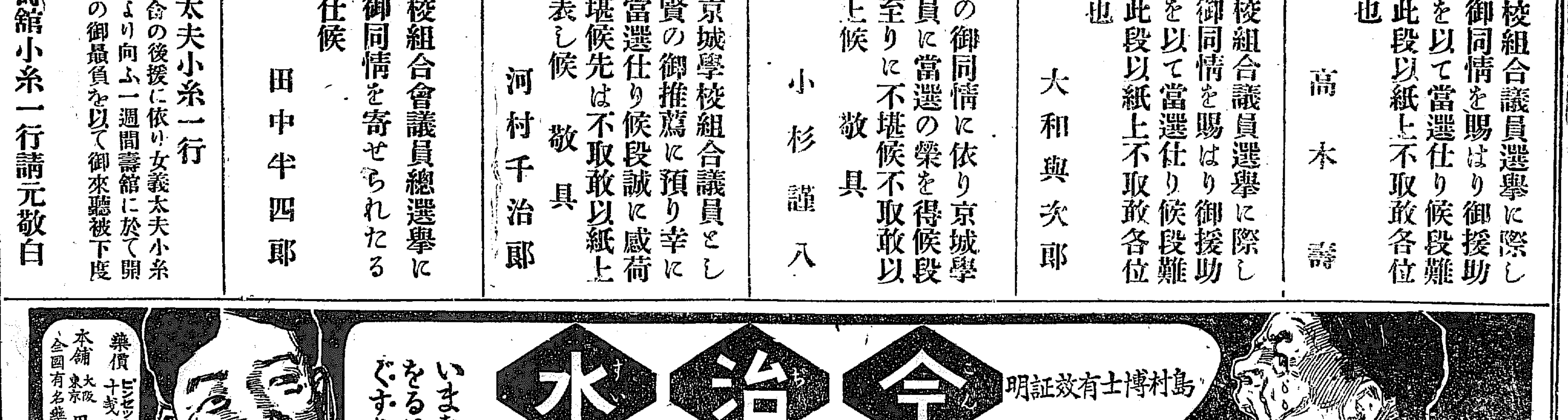
今回京城學校組合會議員總選擧に際し多大の御同情を寄せられたる各位に深謝仕候

大正六年六月十日　田中半四郞

◎女義太夫小糸一行

今回京城魚商組合の後援に依り女義太夫小糸一行を招き九日より向ふ一週間壽舘に於て開演仕候に付特別の御最負を以て御來聽被下度此段御願申上候

壽舘　小糸一行　請元　敬白



◎武田澤心師を

け申請せり(大阪特電)

▲附記 武田澤心師は……

天氣 晴れ

戰の後

⊠當選戰士歷訪記

京城學校組合會議員選擧も茲に終を告げ風雨一過戰の跡は慘たり一敗地に塗れたるあり、勝ちて兜の緒を締めるあり、顧れば昨の接戰の烈しかりし事よ、未だ甲冑も脱ぎあへぬ陣中に光榮ある戰勝議員の面々を訪へば何れも莞爾として語る

□小杉謹八君 三百六十と云ふ飛び切りの最高點で當選した小杉君今し方疲れた體を起した所 御目出度うと云へば『いや有り難う何しろ昨夜は四時間しか休まれませんでしたよ昨日此所の前を通つた知り合ひの有權者が約五百先づ七掛と見て三百五十。三百六十と云ふ得票は實際豫想通りでした割合に人間は付きませんな櫻井君が始めから終りまで斡旋して呉れた丈けで別に運動員やなんかは無かつたのです……抱負？今更そんなものは無いのですが多少の不平はあります……』と最高點を贏ち得た小杉君は意氣衝天。

□河村千治郎君 今や運動員七八名卓を圍んで杯盤狼藉祝宴の酣の態『貴紙で影の薄い部類に叩き込まれたので運動員緊褌一番新たに町內有志に檄を飛ばし益々結束を固うしたので二百六十三第四位に當選の榮を擔うた譯然し八日頃の豫測と一致して居ます……』『實際河村君は議員として最適任者だと信じます』と橫合から運動員の話し酒の香と共に孰れも喜色滿面

□石川眞三君 アカシヤの並木白い花散る龍山の鐵道官舍は綠蔭の下にひつそりと寂しい自らは出度く無いが側の人が承知せず鐵道局の推薦で止むなく出馬した安藤參事の斡旋空しからず二百五十六と云ふ得票で當選昨日迄も今日迄も側の人がやんやと騷ぎ廻る有樣に引き換へ君は飽く迄晴れ間せずの態今日も早朝から外出したとは坊ちやんの御話し此所アカシヤの蔭には選擧風は吹かぬらしい

□肥塚正太君 蓬萊町の山手乳臭い木蔭『得票に就ては私の豫想通りです、普通此の門外と稱する方を固めて居たのですが元來六百票ばかりあつたのを河村君其他と三分した譯です其れに官吏も隨分ありますからね……そうです今度は立つ積りでも無かつたのですが推薦もあるしそれで全く人が無い時には輸入候補迄出して居た所ですからね……組合費が高いの安いのと云ふよりは事實義務教育上の施設と云ふ事が考慮を要する問題でしよう』と天晴の御抱負

□大和與次郎君 龍山郵便局前に君を訪ふ机上には御祝ひの電報や業者やら堆く積れてあるそれに祝言の客やら運動員やらが四五人も詰めかけて居る『町內の方々に非常に世話になりまして……實際水も洩らさぬ結束でしたよ京城邊からの切り込みも隨分激しい樣でしたが吾が結束を破ぶることは出來なかつたしいそれに內部の一致は愉快でしたよ實際十八名の議員中私位果報者は恐らくありますまい』と御機嫌麗し

□大村百藏君 庭先には美しい芍藥が薰る若葉が青く窓に映る小高い邸內には初夏の朝と云ふ感が遺憾なく漂ふ『京城から切り込まれた分は一日京城へ出て皆取返して置いた……そうですな組合費等は各町區長等を設けて調査機關としたら良いと思つて居ます……それよりも此はあるが二三有志に發表した事もあつて居る實は數年來極めて非公式で學校組合なるものを返上したいと思る畢竟完全な自治制の一日も早く實施されん事を切望するからです……』

□遠藤達君 大和町遞信局官舍の青葉蔭、遠藤君の宅は朝からの來客、涼しさうなその客間にはよろこびの人の談し聲がいかにも元氣さうに聞ねて來る、そこへきた岡本工務課長も悠然と來訪して何よりお芽出度うとのお慶び、當選の答禮は役所で挨拶して置から……と主人は相變ずのニコやかさであつた

□池田長兵衛氏 本町通りは瓦斯會社の筋向ひ本町二丁目郵便所長の池田長兵衛君を訪問するとトノツ、ツウツウ電報の忙がしさ切手係の少女が名刺をうけて奥へ這入つたが『主人はこれから四五日とても床から頭があがりませぬ』といふ、お午近くにまだ此の態らく、これでは『池田は頸の蝶番が折れるほど叩頭した』といふ人の話も眞當らしい

□高木壽君 旭町一丁目は青木堂の角を這入つて左に折れ生命保險の看板に高木君宅を發見て刺を通ずれば其處には頭髮を希臘の哲學者然とのばした男が頻りに京日の當選者寫眞をながめてゐる、悅に入つてゐる、名乘り合つてみるとこれが主人の！京城賴母子王の──壽さんであつた『當選はしたが自分より下さらぬ手合が高點なのが遺憾だ何分前晚になつて巧妙なる手段を弄した者があるらしい……』と、なか〳〵の意氣込、過半數役人だね……ウーム……役人だね……』と腕をまくる

□深水清君 本町一丁目は卅一番地『千歲』といふ意氣な家の橫から露路を這入ると大きな梨の樹のある溫突がそれであつた、奥さんがニコやかに出迎へて『主人は朝早くから妙心寺の提唱に參りました』と被仰る『イカンこれ當選の與面目』主人は悟を開いたらしい

□高山孝行君 吉野町南廟下は綠蔭の黒い門、主人は今しフロツク姿で有權者へお禮に出かけるところであつた、眼鏡の主人は如何にも嬉しさに上せ氣味で仕事も碌に手につかぬといふ風であつた

□青木戒三君 青木戒三君を官舍に訪ふ、曰く『お祝ひを言はれる程お芽出度い事とは思はないが惡い心持ちは無論しないよ、僕は落選したつて構やしないが僕を擔ぎ上げた連中がそれぢあな〳〵か承知しないと云ふので大いに力瘤を入れてくれたわけだ學校組合議員もこれから大いに盡すべき任務が多い僕も役所の片手間ながら大いに盡す考へで居る今度役所の方から出た八人達は皆な當選したので民間側選出の議員さん達は役人議員に壓迫されやしないかと云ふやうな心配をして居るが何にもそんな心配は不要ぬさこれが所謂政治でも議すると云ふなら格別お互の子弟を教育する學校組合の議員だから官も民もあつたものではない』

□田中半四郎君 田中半四郎君曰く『僕は八日の日一日水道檢查に引張り廻されたので餘程打擊を受けた而し僕は徹頭徹尾理想選擧に由つてやり通した僕と同じやうなやり口の曾我君は落選して終つたが曾我君の落たのは實に殘念だ同君を落選させたは組合全體の損失であると思ふ僕は民團議員から引續きだから最も古株に成つて終つた年々發展して行く京城の學校組合はこれから益々會議員の手腕を振ふべき時期に成つた其の財源などに就ても大いに研究の餘地がある例令へば組合費を法人に賦課する件等も大に講究し一般の負擔を輕減する必要があらうと思ふ』

□服部豐吉君 服部豐吉君曰く『自分は偶然の事から同僚に押されて立つて見たが役所側からこんなに多數立つと知れば初めから見合せて置いた方が好かつたと思つたそれが爲め民間の人達は非常に惡戰苦鬪をして氣の毒であつた』

□大垣丈夫君 大垣丈夫君を訪ふに君は各方面の同情に由り當選したるを悅び病を厭はず早朝より腕車を驅つて夫人同伴にて各方面にそれ〳〵お禮廻り中であるが留守番の婦人記者(?)語つて曰く『大垣社長は例の如き八面玲瓏しかも滿身之れ誠意の人でありますから學校組合會議などには適任者でありませう』

□清水潔君 清水潔君を南米倉町の官舍に訪問して當選の挨拶を述べると夫人が嬉しそうにして『お蔭で當選しました只今主人は御苦勞かけた各方面へそれ〳〵お禮に參つて居ります』

□福田源一君 高點者側の同君は選擧の事など忘れたやうに早朝から散歩に出掛けたとの事である戰の後の息拔きをしてこれから大いに組合の爲めにも努力するとの事である君は有名の精力家ださうな

おとぎばなし 妙な玩具箱

一臺のゴム輪の人力車が、學校の方へ驅けて行きます。その人力車の上には、常子さんといふお孃さんが乘つてゐます。常子さんのお家は、大層お金持でありますから、學校にはいつも人力車で通ふのでありました。常子さんは人力車の上で、繪本を開いて、綺麗な繪を見てゐました。

そして、常子さんは、目を繪本から離してひよいと向うの方を見ますと、一人のお婆さんが、よち〳〵と、向うの方へ歩いて行くところでありました。

間もなく人力車は、そのお婆さんの傍を驅け拔けやうとしました。常子さんは車夫の吉さんに聲をかけました。

『吉さん、ちよいと、私を下ろして頂戴。』

『へね、どうなさいます？、お孃さん。』

『好いから下ろして頂戴！』

車夫の吉さんは、梶棒を下ろしました、常子さんは、急いで人力車から下りて、お婆さんに

『お婆さんのお家は何處？』

と云つて尋ねました、お婆さんは、かう云つて尋ねられて、常子さんのお顔を見まして

『あなたの通つていらつしやる學校のつい近所でございます』

『さう、それではねエ、私の人力車に乘つておいでなさい。そんなに年寄りになつて歩くのは苦しいでせう、お婆さん、早くお乘りなさい。』

と優しく云つてやりますと、お婆さんは

『どう致しまして、勿體ない。そんな綺麗なお人力車に乘つては罰が當ります』

と云つて、どうしても乘らうとはしませんでした。

『さう云はないでお乘んなさい、ちつとも遠慮することはないよお婆さん。』

と常子さんは度々すゝめました。あまり常子さんにすゝめられましたので、

『それでは乘せて下さいまし。ほんとに、あなたのお情深いのには感心しました。どうも難有うございます』

と云つてとう〳〵人力車に乘りました、車夫の吉さんは、お婆さんを倖に乘せて引き出しました。常子さんは、人力車の後から歩いて行きました。

人力車は、やがて學校の門の前に著きました。

『もう此處で下ろして下さい。私の家は學校の裏でございますから。』

お婆さんは人力車の上から聲をかけました。吉さんはお婆さんを人力車から下ろしてやりました。お婆さんはにこ〳〵しながら、

『お孃樣、まことに難有うございました。お蔭樣で、ちつとも疲れないでまゐりました。車夫さんご苦勞樣。』

とお禮を云つて、橫丁へ曲つて行きました。常子さんは、お婆さんを人力車に乘せてやつて、好いことをしたと思ひながら、學校の門を入らうとしますと、吉さんが後から、

『あのお孃樣、こんな箱が人力車の上に置いてありました。』

と云ひながら常子さんに渡したのは、玩具の箱でありました。

『まあ、玩具の箱？』

とその玩具の箱を受取つて中を開けて見ますと、中にはいろんな珍しい小さな玩具が入つてをりました。そして、

『親切なお孃樣へ、玩具の神の婆さんより。』と書いた紙片が、玩具にまじつて入つてをりましたとさ。

明君道中記

第百七十二席 田邊南龍口演

紀伊大納言殿の輿物は此の騷ぎで其處へ止つてしまう、宿中は大騷ぎ、長七郎は右召捕つた徒士を柱に結びつけ正面の緣に腰を掛けて居る、宅兵衛宇平次は其の前の處に下座をして居ります。處へ參りましたのは紀伊家供頭五十嵐小兵衛といふ者、茶店の前へ兩手を突へ 小『恐れながら其處に渡らせられまするは北の丸御若樣にて居らせられまするか、是は五十嵐小兵衛御案內を仕りますれば恐れ多くも彼處へ成らせられますする樣 長『オー小兵衛と申すか役目大儀である、早速案內いたせ、久々にて伯父上に面會をいたす、兩人續け』と被仰つて小兵衛の案內に從ひ御輿物の傍へ參ると、紀州家の輿物は往來の中央に下りて居ります、御輿物の戸を開いて御立出になりましたのは紀州和歌山の城主大納言賴宣公、長七郎を御覽なされて 賴『是は〳〵長七郎であつたか、久しう見ぬ內最も成長いたすものかな、かゝる姿を忠長存生にて見たるなら嘸ぞ喜ばしく思ふであらう、其方も健固で喜ばしい 長『是は〳〵伯父上には久々にて尊顏を拜し恐悅至極に存じ奉る 賴『賴宣は今晚神奈川が泊りである、其方の家臣の內を一人神奈川本陣へ差出す樣何かと申し入れることもある 長『委細承知いたしました 賴『兵庫〳〵』と呼出しましたのは川崎本陣の主田中兵庫 賴『コリヤ兵庫此處に控へ居るは名は申されぬが尊き方である、今宵は其方へ宿陣申し付ける、粗末無之樣叮寧に扱へ』兵『畏り奉る』乃で紀州家の輿物は上る長七郎は田中兵庫の許へお出になりました、三宅宅兵衛を早速に神奈川本陣紀州殿の許へ遣はしまする、長七郎は上段の間へ通つて田村宇平次を傍へ引付け先刻召捕たる徒士は庭の立木へ縛り付け宅兵衛の歸りを待て居りまする處が心配したのは主の兵庫でございます紀州樣が尊き御方樣と云て見れば何でも大した御方に違ひない萬一不禮でもあつて手討にでもなつたら大變、家內の者一統を呼んで其の事を申し聞せましたが、只尊いお方では判らない彼の御家來に何といふお方であるか聞いて見やうと思つて賄賂のつもりか三兩金を包み其金を懷中に入れて次の間へ參り宇平次を呼んで 兵『エー御家來樣まで申し上げますが』宇『何だ』兵『先刻紀州樣よりお聲がゝりでお宿をいたしましたが只尊きお方だけでは譯が判りません一體何ふいふ御身分のお方であるかお名前を聞かして頂きたいもので、又吩咐けてはございますが、女共が不禮でもあつた時には貴下樣から何うぞお執成をいたして頂きたいもので、此は些の輕少でございますが貴下樣へ差上げます』宇『何か亭主名を聞いて置きたいといふのか』兵『へエー』宇『此のお方は北の丸の御所と稱へて江戸表一ツ橋內に御屋敷があつた駿河大納言殿の御公達長七郎君と申し上げるのじや』兵『へエ駿河樣の若殿樣で居らつしやいましたが、それを承はつて安心をいたしましたが何うか失策がありましたらお執成を願ひます』宇『宜し〳〵其時には俺が執成して遣る、が貴樣も知つての通り先刻神奈川宿まで御用で參つた、三宅宅兵衛といふ相役がある』兵『左樣』宇『彼の宅兵衛が歸つて參つて附届をして置かんと俺が執成しても彼の宅兵衛が打毀してしまうぞ』兵『成程』宅『とてもの序にもう三兩持つて來イ、俺から宅兵衛に取次で遣る』兵『ヘエーもう三兩出しますのか』宇『知れたことだ』甚い男があつたもので賄賂の催促をしました。

●連絡船上陸客 六月八日午後九時三十五分釜山入港對馬丸 一二等客 一等八名 米國人[illegible] 露國人ラヂセン、中村愛吉、岡つる、西野米治、磯貝[illegible]三、小市[illegible]
六月九日午後九時三十五分釜山入港 [illegible]

△川柳 [illegible]
△柳 [illegible]
△三[illegible]道と掛けて [illegible]
△一口噺「其時々の水」 [illegible]

豫報 [illegible]

三世相 六月十二日 舊四月廿三日乙酉 本命六白乾定友引
▲六白 嘩のうるさき事有る 日新事見合許方は吉 ▲七赤 [illegible] ▲八白 [illegible] ▲九紫 つまらぬ事多き [illegible] ▲一白 [illegible] ▲二黑 [illegible] ▲三碧 [illegible] ▲四綠 [illegible] ▲五黄 [illegible]

演藝案内

有樂館 東京小林商會活動一手代理店 米國ユニヴアーサル會社特約 直營 早川演藝部 電話(階上)四九七番(階下)二〇五番
六月八日より公開特撰フヰルム差換 ○神秘劇『ふた道』全三卷 ○世界的の連續寫眞第三『紫の覆面』 ▲實寫 ▲大活劇 ▲喜劇 ○新派家庭劇『心の闇』全二百場 吉川良彦 [illegible]

壽館 京城壽町 電話一〇五〇三
[illegible] 當る六月十日二日目配題 [illegible] 大切一座總出 [illegible] 特等五十錢、一等三十錢、二等二十錢、三等十五錢

浪花館 明治町 電話二六〇
▲女流浪界の泰斗廣澤夏菊一行今回滿鮮巡業お名殘り特別興行として九日より晝夜二回興行 ▲後藤又一郎(菊若)▲播隨院長兵衛(菊六)▲小栗判官(吉田奈良子)▲千兩幟(京山相生)▲義士傳俊德丸(夏菊)

大正館 櫻井町 電話八七三 日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店
○六月七日より提供の三大寫眞 ▲實寫 海月の生活 ○滑稽多過ぎ ○喜劇ケンチ ▲伊太利ミラノ會社傑作 ○冒險活劇『秘密の金蛇』全三卷 [illegible] ○舊劇 源平戰史 牛若丸(全四卷) [illegible] ○新派悲劇 あかね染(全三卷) [illegible]

御成座 電話一一九一 御成町
▲新派劇革新倶樂部一行第九回藝題 一番目「勇み肌」 二番目「喜劇」女房の笑顏 (いろは順)石黒勝之助、花井譽、川上源太郎、山岡定夫、藤田正光、秋本逸郎、淺川明、三島健之助、清水俊夫、志賀光男、白川一志、小役 小白川千代

!!大好評!!
●女流浪界の横綱 廣澤夏菊 入場料は大破格
明治町 浪花館

黄金館 電話二六三七 六五二 天然色活動寫眞株式會社京城釜山一手代理店
六月九日より新提供寫眞 ○實寫 [illegible] ▲第七第八ポーリン 全十卷 [illegible]

華道家元 池坊生花大會
家元代見岩田立山師御出張相成居候に就いては來る十二日十三日兩日南山本願寺に於て生花大會開催仕候間隨意縱覽度下度候
京龍間 池坊華友會

美正派盛花 未生流生花大會
來る六月十一日十二日兩日本町二丁目釘本商店前に於て開催
京城明治町 主催 春道齋社中

汽車

宮内省御買上品

美顔水

都會の婦人と垢ヌケ

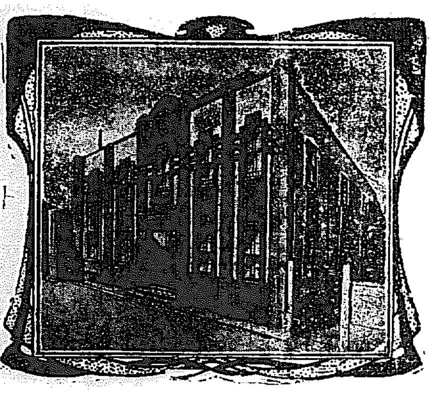
都育の人は一般に山家育ちの人より垢ヌケしてゐます。垢ヌケして居るからこそ都育ちの人は美しいと言はれるので。此「垢ヌケ」が無かつたら目鼻立なぞでは那麼に甚く變つてゐるのではありません。それ故美しくなるのには「垢ヌケ」が一番に必要だといふ事がお分りになりませう所で垢ヌケするのには、皮膚の新陳代謝と言つて、陳い汚い表皮を、新しい美しい表皮と入代へる、元來皮膚に具つてゐる作用を一層活潑にさせるのが第一ですが、其作用を極めて活潑にする成分を含んで出來てゐるのが美顔水で、殊に桃谷研究試驗所の學者が發見した新しい美容素を原料に加へてから、美顔水の効力は一層強くなつたので有名です。ですから美顔水を一瓶や二瓶で止めず、朝夕續けて使つてさへ被居れば、垢ヌケした眞に美しい人となられるので、上中流御家庭の御賞用が益々盛なのです。

垢ヌケする化粧水 たとへ顔だちの好い方でも、垢ヌケしてゐないと美しいと申されませんが、美顔水は非常に皮膚の新陳代謝を活潑にして垢ヌケする樣に出來てゐるので、一瓶や二瓶で止めずに常用なされば、自然に見違へる程美しくなるのです。尙美顔水には……

理想的の白粉の溶水 として殊に優れた作用があります。化粧用美顔水で白粉を溶いてお化粧なされば白粉のノリやノビが非常に良くなり、白粉が自由自在に言ふことをきいて、思ふ儘に美しいお化粧が出來ます。それから今一つ美顔水には……

粘り氣なしに荒を防ぐ といふ珍しい成分が入つてゐますので、粘り氣を好まれぬ方々に大層重寶がられて居ります。

尙……ニキビ吹出物を治すのには別に「ニキビとり美顔水」がありますから其れをお勸め致します



▲美顔水の品質をいよ〳〵優秀ならしめたる

桃谷研究試驗所

所長 藥學士 桃谷幹次郎
技師 理學士 西澤勇志智
同 醫學士 米倉昌達
同 千葉藥學士 小磯勝次郎
同 同藥學士 齋藤銳助
顧問 藥學博士 丹波敬三氏
同 醫學博士 山本淳二氏

京城日報

六月十一日
(夕刊七合せて八頁)

本紙定價　一部金二錢五厘　一ヶ月金五十五錢　郵[illegible]
廣告料　[illegible]
發行兼編輯人　奥田直毅
印刷人　小川三之介
發行所　京城太平通一丁目　合資會社　京城日報社
電話番號　[illegible]

第三版

…る者あり中には徐世昌氏の大元帥の…なるも…飫ぎ復辟…に就き…派あり種々討論の結局現下の如くの、如く(北京)

…にして一致を…と云ふに一致し之を時局平定後の適當の時期まで保有するに決定せるも…漸進急進の二…

…場を有せる满商登記洋…製品の如きは下級社會及び洗濯用石鹸として殆んど獨占の有樣なりしが戰後歐洲品…に大規模…とする向…る模樣なり現下滿洲に…石鹸製造業者中主なる…擧出せりと(奉天)

…能力の増進を圖り…支那人向に改良して本邦品の滿洲開拓を圖らんとし過般都督府に補助金の請願…

…二人生徒數…二萬三千八百…百九人計二萬四千百十六人經費十…萬一千二百八十六圓なり

…ば約六百馬力を増加し今後益々増加の趨勢に在りと云ふ而して目下新規需要者中…居れるは…なりと云ふ

…けるに偶々過日大爆…部破壞したれば善後の方法に腐心中

支那商工業の變遷(九)
今關天彭

二、隋唐及び五代の商業(其二)

また陸路の方面を見ると、煬帝は武威(今の甘肅涼州府)張掖(今の甘肅甘州府)等の郡を開いて、東西貿易の地としたので、西域商人の來り商ふもの四十國に上つたといふ。唐に至つて天山北路の交通が比較的容易となつたので西域から來るもの多きを加へ、支那商人もまたこゝから葱嶺以外の諸國と貿易した。

隋唐の時代にては、現今に於ける商業の主要地は大抵發達したが、漢以來の思想と政策とにより、依然として商人を賤しんだ。隋の高祖の開皇十六年には工、商の仕進を禁じ、唐の高祖の武德七年には、工、商、雜類の、士類と伍するを得ざるやうに定め、これよりして士類のみ獨り貴く、工、商業者の人格を認めぬやうになつて來た。

唐の商業は、外部の交通は盛んであつたが、內部はさうでないやうである。貞觀、開元の間は、朝野靜謐從つて商業界もまた盛大であつたけれども、天寶以後となると、安祿山の亂が平いだと見る間に、藩鎭の亂となり、紛々擾々の時期に入り、商業もこれにつれて衰退した。然るに唐一代の上から見て、商業に大影響のあつたものが二つある。一は糴法である。これは春秋戰國の時、魏の李悝が平糴法を創め、饑饉の時に當りては、その米穀を民間に散ずる法で、その主意は專ら民を濟ふに在つた。歷代この法によつたが、唐の時始めて和糴法を作つた。和糴法とは、官民相互に相談して、米と錢とを交易するのである。そして倉を置き(即ち漢の常平倉)穀を貯へて李悝の遺意を祖述して居たが、前記兵役の長引くによつて貯へた米穀を軍團の用に當てたゆゑ、後世に至つて倉のみあつて穀がない始末となつた。そこで一たび凶年になると、米商が米を買ひ集めて價格をせり上げ、爲に市場の亂調子を來すやうになつた。一は茶法である。茶は唐に至つて盛に流行し、推茶の法が出來た。但し當時邊地の貿易は、茶が重要なる輸出品となつて居た。明史の食貨志に、番人乳酪を嗜み、茶がなければ、疲れて病む。故に唐宋以來、茶を以て、番人の馬に易へる法を行つて、番人を制馭すると見えて居る。漢より唐に至るまで、絹と茶とは輸出の重要物となつて居たが、近世に至つては、この二つのものが、日に衰へて、伊太利の絹、日本及び印度の茶が盛んに出るやうになつたので、支那商界の影響が寡くない。

海拉爾城(一)
黄龍旗翩翻たる

過般來一時世人の耳目を聳動せしめたる蒙軍の海拉爾占領に就ては大體に於て副都統勝福多年の不德に因りて民意の背馳及び蒙軍の反撥を買ひたる形跡歷然たるものあり故に先づ當面の主人公たる勝福の人物等より以下徐々に事件の概要につき說く所あるべし

▲勝福は元來呼倫貝爾五旗中の[illegible]族の出にして始め其統盛たりしものが後に一躍して副都統の職權を贏ち得たるものなるも其實沐猴にして冠するの類なるを以て常に權柄を弄して傲奢橫暴を極め苛稅を課して州民を塗炭の苦みに陷れたる等虐政の至れり盡せる所枚擧するに遑あらず

▲如斯勝福は內には暴戾壓迫を事としたりと雖も外官憲其他上司等には頗る巧妙に立廻りて只管其歡心を買ひ其餘威を以て絕えず蒙軍の壓迫手段をも講じ居たる爲め陰に民心の乖離及び蒙軍の反抗を招き居たるものにて由來する處故なきにあらざるなり

▲尙蒙軍壓迫に關する最近の事例を示せば即ち蒙軍側にては全員に供給すべき食料品購入の目的にて豫て三十名の部下を海拉爾に派遣し便宜上之が中繼機關となさしめ居たりと云ふが勝福は表面之を認容し居たりと雖即ち自己の膝下內に蒙軍一派の所在を以て一方ならず不快とし密に其排除方に焦慮し居たる形跡あり

▲其結果勝福は自己の甥を態々北京政府に使せしめて蒙軍討伐の申請をなし又黑龍督軍に對しても同樣の手段をなすと共に兵器彈藥の購入をなし殊に一面には頻りに某方面の鼻息を窺ひて其援助に俟たんとする所も多かりしと云ふ

▲然るに此等の事何時しか蒙軍の知る所となりしが元來呼倫貝爾州は一昨年十月露支條約にて特別地域として各省と對立し中央政府直屬となりしものなるが勝福の壓迫日に加はると共に蒙軍全員の憤激殊に甚しく實に日頃の積憤に搗て加へたるの觀ありしと云ふも何ぞ隱忍以て好機を俟ちたるが如し

▲然るに勝福は之を以て尙ほ足れりとせず最近に至り海拉爾と哈爾賓間の街道即ち蒙軍の死活を制する交通の要衝に向け殆んど進隊的に約二百の部下を派遣し而も之を四隊に配置したりと云ふが之に依りて遂に蒙軍一派との衝突となり而も砲火を交ゆるに至りたるなり

法螺吹の話に就て(一)
渡邊彰(寄)

翠光蒲目の今日この頃は兎もすると眠を催すにより此の時此の際法螺吹の話も亦以て眠氣覺しの一興となるのみならず事は朝鮮內に於て現實に催しつゝある實話を材料として法螺吹の佛說を紹介し吾人も眞の法螺吹たる地位に進みたるものと思ふ此の法螺吹と云ふ詞を當節の人は之を亂用して誇大の言を爲せば直に以て彼は法螺吹きなりと了解し自他ども怪しまれども法螺吹きと云ふ意味は決して左樣な譯合のものではない。世人動もすれば大○隈侯を第一の大法螺吹きと推重し後○藤新○平男を之に亞ぐ大法螺吹きとして珍重すれども果して大隈侯及び後藤男は眞に大法螺吹きたる資格あるや否之を經論疏釋の上に於ける標準に照して考究するときは甚だ疑はしき點が多い。餘談は暫く差置き玆に朝鮮內に起りたる法○螺○吹○申○合○の要領を述て世の同好者と共に此の申合が邊僻の土地に汎く行はれて起居節制の準繩尺度ならむことを希望するなり

法螺吹申合の成立せる場所は忠淸南道天安郡の邑內にして其の會員は專ら靑年なれども風化の力波及するときは老若男女を問はず擧て會員となりて他の郡邑にも此の美風は他年の後波及すべきものと思はるゝなり

却說予が此の法螺吹申合せの成立せしことを聞込みたるは先月初にして此の申合せの成立上に努力せしは曹○洞○宗○布○敎○師○金○寶○泰○禪○氏なり。同氏は天安に布敎の根據を据ゑ根氣能く布敎に勉めつゝあるが之に因緣して同地に天安[illegible]會なるもの成立し藤[illegible]五郎氏を推して會長と爲し會員は重に同地の靑年者を網羅し定日には集會して說敎を聽き又同地に知名の士の來ることあれば之を招聘して講話會を開き以て各自の修養を高むる材料を豐かにし取て以て各自の日常の行實に現はすことを目的とするものなりと云ふ而して集會其の他の相圖に高○所○に○登○り○て○法○螺○を○吹○き○以て各人に告知する方法を採用し其の準備も旣に整ひたりとは金寶泰禪氏の直話なり。而して金寶泰禪氏の談に依れば萬事の上に應用するは修行と訓練とを要するが故に先づ以て每○朝○起○床○の○時○間○の○告○知○を爲すことゝし法螺の音を聞けば會員たる者は必ず起床して夫々定めの仕事に掛ることゝし是を以て紀律を肅す風習を作り徐々他の事柄に推及して天安の靑年を紀律正しき常習者と爲さむとする事に在りと云ふ

予は金寶泰禪氏より此の話を聞き双手を擧げて贊成したり其の譯は紀律あり節制ある動作程吾人の活動上に必要なるものはない法螺を吹て一般に告知することは上代より行はれ且つ佛說經論にも其の典據歷然として散見する所なれば彼に引き此に見て此の法螺吹きに關係ある要點を拾ひ左に記することとせり法螺とは佛寺にて吹き鳴らし法事に使用するに由て珂貝と名付けたるものなり、元○照○の○壽○經○疏○に依れば「外には螺を吹き是れ改號の相に警へ。內には佛の說法の惡を改め善を爲すに合す」とあり。

朝鮮の印象(中)
東京にて　中澤弘光

慶州は新羅時代の古跡が多い。日本の大和であるといふので、私は最初に先づ見物をして見た。有名な佛國寺も、雞林も、芬皇寺も、其他近い古跡は見て廻つた。遠見よき朝鮮の建築も、近づいてはさまで私の興味を起す程のものは無い、彫刻もさうである。私なぞは溫突式の藁屋の方が、却て畫的趣味の多いものと思つて、歪んだ慶州の民家を盛んに寫した。妓生の住居をその溫突に訪ねた、而して大きい赤い鼓を前に置いて、水色の上衣と黑い袴を著た妓生を寫生した、其の時である。私は何處となく聞えてくる大鼓や歌の響きに門を出て見た。それは程遠くない松山の上で、鮮人等が遊山の最中であつた。慶州、何となく地勢までが大和の樣な氣がした、道の土は白い、古墳の丘は多い。大和の三山の樣な小山、葛城山脈とも云ふべき南山の飛山、遠くは栢栗寺の森、近くは芬皇寺の塔、雞林の森、民家の草屋根に混つた富人の蒼い瓦屋根、南畫の樣な榎の梢に大きな鵲の巢があり、黑い朝鮮山羊は路の畔にしよんぼりと立つてゐる。道を行く人は何れも白衣である、婦人は水色や綠の被衣を、風に飜してゆくのもある、輿も通る、鈴を鳴らして小走りする小い朝鮮馬に、道を急ぐ旅客もある。その長閑な春の日、小高い松山では、白衣黑冠の連中が、妓生を取卷いて歌ひ且つ舞ふといふのである。男も踊り女も踊る。白い群から、緋の色、橙色、淺黃色、桃色などが、松の木の間から見えてくる。それこそ背景を背にして、領巾振る妓生達が、羽衣の天女とも、一節の舞姬の天降れるかとも思はれた。吉野山で三味前が法樂の舞を舞つた時分よりは、更に遠い古の樣な氣持で、自分は松山を仰いで居た。淋しい靜寂な村はづれで樂の音をきく、山の上の踊りを見る、優美な服と、氣樂な悠長な生活とは、唯一夜說峽を越えてきた私達に、直ぐ千年前の世界を見せてくれた樣な氣がした。

白山黑水行
滿鐵　上塚生

第一信

(明命により又々北館の地に旅立ち申候。行く先は白山黑水の咸鏡北道を主眼とし、一歩を北滿の地に印すべく候。乃ち京城より元山を經て淸津に直航し、鐵道及び輕鐵により會寧に到り、以後は[illegible]を用ゐて、龍井村より局子街に出で、[illegible]鏡城に歸り、更に[illegible]豆滿江に沿ひて慶源、慶興の諸[illegible])

天下の快男兒豐太閤が、日本平定の餘威、更に欝勃たる英氣を海外に晴さんと欲し、あわれ東亞大陸統一の偉圖を抱きて、文祿元年先づ兵を韓國に送るや、雞林八道の草木天光に靡きて又生色無し。而して吾咸鏡北道を席捲したるものは、實に吾北人に取り最も親しむべく、敬すべき鬼將軍淸正公其人にて候ひき。歷史をたどれば、淸正が小西行長淺野長政等と開城府に別れて咸鏡道に向はんとし、路を東に取り進んで鐵嶺の險を越え、咸鏡南道安邊(道鏡)に達せしは、文祿元年五月此望と覺え申候。

公は安邊に留りて、先づ鍋島直茂の軍の到るを待ち、共に進行[illegible]に到り北道兵使韓克誠と戰ひて此を破り、次で臨海順和兩王子の逃れて北道に入るを追ひて永興に進み、更に長驅して咸興、北靑、端川、吉州、明川を經て鏡城に入る。時に二王子會寧にありて、即ち進めて二王子を捨にせしは此れより約一箇月を要したる次第に有之候。[illegible]を攻め、自らは殿して鏡城に出で、之より穩城、慶源、慶興を經て西水羅(豆滿江の東方)の海濱に到り、此より鏡城に引返し、此地には加藤清兵衞を留めしめて自ら安邊に歸り、此處を本營として、人心の收攬に[illegible]、諸將の[illegible]を直轄の地に[illegible]し、よく海外に於ける封建制度を現したる跡は、歷史を讀む者に[illegible]感を起ゆるものにて候。之、其の足跡の探究は久しく、小生が渴仰して止まざりし所のものにて御座候

今回れ何の幸か敬慕する鬼將軍の跡を追ひて北韓に向ふ。時代は一變し、交通の難易又昔日と比を同ふせずと雖も、長白の山、豆滿の流れは尙昔を語るに足るべく、間島一帶の沃野又新らしき研究を積むの要なからんや。往かん哉、往かん哉、吾が命輕からず候即ち一語を寄せて第一信に代へ申候(五月二十五日元山より城津への途上米壤丸にて)

日報詩壇

○孤櫻　齋藤三寅
盆裏移栽一老櫻。花開無復昔時芳。
魂恰好映紅日也。而人間表年誠。
評曰　詩亦自至誠來、不假雕飾也。

○白鷗　大陸　鳩仙
死死生生廻六衢。一心卓境本來無。
情盡處夢(幻)覺。四十八年忘我愚。
評曰　老ノ超詣。

○聽杜鵑　幽兒　寄堂
綠樹重重蓋啼成、老人亭畔傷情、不
如歸去春方老、血涙股股猶魂鳴。
評曰　如聽一曲小詞。

○觀牡丹　兒島九皐
開遍階前日牡丹、天香馥郁[illegible]。
他深夜狂風起、又恐[illegible]。
評曰　深情之作。

○　藤倉藤陰
老梧古檜老人亭、葉茂林滿溪流滿庭。
有響杜鵑哭夕陽、不耐聽鵑節聲。
評曰　讀李太白集有情

○　隈部矢山
以詩爲命酒爲天、絕代才名凡八埏。
一千年無繼者、古今獨步李青蓮。
評曰　乾隆帝日太白爲千古一人、此詩亦其意、殊起七字最覺妙。

○初夏幽居　大久保晚香
棲遲幽意適、夏景遍郊原。桑柘方堪摘、蓬兒飢欲眠。熏風生麥隴、甘雨及秧田。蛙子群游沼、魚苗長滿淵。平蕪迷老蝶、嶽樹帶鳴蟬。緩養庭前菊、閑聽月下鵑。瞻茶傍爻到、活酒小奴還。竊樂去來境、儘成長短篇。冰心消火宅、雪骨老涼秋。[illegible]曲肱足、五湖何泛船。
評曰　刻意敍景物、語語清穩、眞得幽居之趣。

商業登記公告

漢城材木柴炭株式會社監査役李[illegible]鴻及金聚煥ハ任期滿了ノ處金聚煥ハ大正六年五月廿八日重任シ且左記ノ者監査役ニ當選同日就任シタリ
京城黃金町貳丁目拾番地　趙鼎九
支配人選任
支配人ノ住所氏名　京城府笠井町五拾番地　李基煥
[illegible]
右大正六年六月七日登記

朝鮮實業株式會社[illegible]
右大正六年六月八日登記

京城地方法院

最新刊

進むべき道　南條文輔　一、三〇
新譯韓非子　野中元三郎　九〇
俗語大辭典　堀・美濃部　特一、八〇
あぶらむしの研究　工藤元平　一、五〇
天眼通　村上濱八　一、二〇
女房の研究　日下部金鉾　一、〇〇
當世白道樂　堀內新泉　一、三〇
美文の作りやう　吉川直穀　四五
小野名人將棋秘訣　小野五平　六〇
書簡の方式と書法　加藤良久郎　六〇
暗算と時算の覺え方　[illegible]　九〇
四面楚歌の響　乙元山敏　一、二〇
世界露西亞生活　山田梧卿　一、〇〇
禪と健康　堀內文次郎　六〇
鳴雪俳句鈔　內藤鳴雪　三五
淀君　笹川臨風　一、〇〇
銅と頭腦　[illegible]　一、〇〇
誘惑 前編　德田秋聲　一、〇〇
南地情話　渡邊霞亭・寺田雅一　六〇
英文和文 緒花紅葉　武島羽衣　六八
十三夜　樋口一葉　五〇
受驗必携 朝鮮公文解釋　安達大壽計　四〇
朝鮮總督府巡査受驗提要　[illegible]　四五

大阪屋號書店　京城本町一丁目

是れ！是れ最高能率を有し眞に理想的なパイン萬年筆を直ぐ御買ひなさい!!

"PINE"
◎大日本政府登錄　米國製五十四金「イリジユーム」付ペン　(責任保險付)
堅牢無比
◎附言　パイン萬年ペンは自然の破損又不具合の節は滿一ヶ年間交換又無料修繕
完全なる設備と老練なる技術者に依り各種萬年筆即時修繕
東京パイン萬年筆出張所　京城旭町二の六
定價　[illegible]
發賣元　京城大平通一丁目　京城日報代理部　振替京城三〇〇番
陳列所　京城本町二丁目　ウツボヤ書店

ビールの眞味を解する方は擧つて本品を愛飲せらる
サクラビール

簿記募集

通學生　寄宿生　校外生
大正六年新學期生徒募集
東京市芝區櫻川町十一番地
私立認可　日本簿記專修學校

夏物　硝子器各種(製造開始)
右卸賣販賣仕候
進物用コップ御名入　ハイ取器
其外食器類一式御好應可申候
多少に拘らず御用命の程偏に願上候
京城林町一六二番地(黃金町四交番所北へ入る)
小野玻璃器製造所　電話二七九一番
京城鍾路二丁目角
小野玻璃器販賣所　電話二八七九番

支那の形勢

▲督軍民黨結局妥協か
黎總統の苦衷＝三日以内に返電

既電の如く張勳氏は天津著後徐世昌李經羲兩氏其の他と協議の結果調停條件として黎總統留任、議會解散、現內閣改造、憲法改正、清朝優待、帝政元兇赦免の六個條を決議し之を黎總統及び九省督軍に打電して同意を求め尚黎總統に對しては議會解散に同意せば直に總統令を以て公布されたしとの條件を附せり總統は八日夜民黨議員十數名を招き左の件を諮りたるに議員等は未決の憲法條項に對しては出來得る丈讓歩せんも命令を以て議會を解散せば總統を謀叛者と見做すべしとの反對説出でたるより內心命令を以て議會解散の心ありし黎總統も色を失ひ九日朝張勳氏に對し議會解散は直に實行する事困難なれば三日間内に解決すとの返電を發したり張勳氏は該返電を以て既に黎總統承諾せりと考へ居れるものの如くなるも果して總統にして斷行し得るや否やは疑問にて或は總統の辭職を見るに至るやも知れず尤も督軍連は議會解散の手段に手古摺り此程范源濂徐樹錚氏等を介して民黨に妥協を申込みし程なれば民黨は發友社宣言の如く憲法問題に大讓歩を爲すと同時に第三期の議會閉會期を早めて解散する事とし妥協成立するやも知れずと(北京特電)

▲張勳入京と人心動搖
兩院議員の北京落ち國會事實消滅

張勳氏は手兵を率ゐて入京せんとし約四千餘の部下進軍し來れる爲め北京の人心動搖し參衆兩院議員の天津若しくは上海に遁走する者多く國會は愈々解散せんとするも法定人員に滿たず事實上消滅の奇觀を呈するに至れり(北京特電)

◎廿圓紙幣發行か

國力膨脹に伴ふ經濟界の要求に依り政府は二十圓紙幣を發行すべく準備中なりと(東京電報)

◎滿洲製糖進捗

已に上棟式を行ひたる南滿製糖會社工場は目下內部の機械据附基礎工事中にて同所引込線は本月十二、三日頃開通の筈なり又機械類中已に大連に到著の者もあり引込線開通と共に機械の運搬を始め直に据附に著手さる可く該工事は豫定通り迅速に進捗し居れり原料甜菜は已に大部分發芽したるも降雨なき爲め生育遲々たるを免れず去れど元來甜菜は旱魃に對する抵抗力強きものなれば最近に於て一二回の降雨を見ば大なる惡影響を來たさざる可しと(大連)

◎朝鮮の養蜂業

大正五年中に於ける鮮內の養蜂狀況左の如し

▲飼養戸數並に巢箱數 大正五年末現在の蜜蜂飼養戸數は五萬四千四百五十二戸巢箱數十萬三千百四十三箇とす、巢箱數の最も多きは江原道、平安北道にして各二萬箇以上之に次ぐは咸鏡南道にて一萬箇以上最も少きは咸鏡北道の百四十七箇なりとす而して飼養戸數一戸當の巢箱數は各道共に平均二箇乃至三箇に當る之を前年に比較するに飼養戸數四千四百十一戸即ち約九分巢箱數九千三百七十六箇即ち約一割の增加を示し近年漸次飼養增加の趨勢に在り

▲蜂蜜蜂蠟の產額及價額 大正五年は前年に比し各道概して養蜂の成績佳良なりしも獨り主要の養蜂地たる江原道に於ては夏季霖雨多かりし爲め著しく產額を減少し其の結果全道の總產額は蜂蜜五十五萬九百八十七斤蜜蠟八萬八千七百九十八斤にして前年に比し僅に蜂蜜は八十三斤蜜蠟は八百六十二斤を增加せるに過ぎず然れども其價額の增加は斤量の割合に比し著しく即ち蜜蜂は十八萬二千四百廿九圓にして二萬四千八百五十二圓(約一割六分)を蜜蠟は三萬六千十九圓にして九千三百八十一圓(約三割五分)を增加せり、是れ從來朝鮮に於ける蜂蜜及び蜜蠟の需給狀況は全く地方的にして他に販出することなかりしも近年交通の便開くると共に販路の擴張を見るに至りしに依る

◎朝鮮春繭良好

內地より幾干か遲るゝを常とする朝鮮の春繭も昨今漸く慶尚南北全羅南北道を最先とし出廻りあり京畿道も下旬頃より其の出市を見るべしと云ふが大體に於て前年の天候は蠶兒の飼育上稍乾燥に過ぎし觀あれど各地を通せる出來榮は申分なきものゝ如く一貫良品五圓七八十錢普通品四圓四五十錢を唱へ之れを前年に比すれば七八十錢方の上値なりと

◎天水畓と大豆

近來降雨少なき爲め一般農民は植付水の不足を感じ早くも旱魃の聲を聞く有樣なるが京畿道にては萬一を慮り道廳より天水畓には大豆を播種せしめ置き挿秧時に水を得たる場合は生育中の大豆を其儘肥料として鋤き込み植付水を得ざる場合は生育中に在る大豆を發熟せしむる事は天水畓に對する措置上當を得たるものにして殊に本年の如く降雨少なき年に於ては大豆播種策の一層必要なるを感じ一般に通牒獎勵しつゝありと

◎國税徵收良績

府税務課の調査に由れば京城府管內に於ける大正六年五月末日現在地税其の他の國税に對する徵收狀況は租税總計調定濟額二十二萬一千二百七十二圓內收入濟額十九萬八千三百七十一圓即ち收入未濟額二萬二千九百一圓にして此の收入歩合八割九分六厘を算し前年に對比すれば良好なる結果を來せる譯なり今各税別に就き內容を擧ぐれば左の如し

	調定濟額	收入濟額	收入未濟額	收入歩合
▲市街地税	八九、七〇七	八三、九二一	五、七八六	九三五
▲家屋税	二七、五五九	二〇、〇三五	七、五二四	七二七
▲酒税	九、〇二四	八、七一二	三一二	九五八
▲煙草税	九四、九八二	八五、七〇三	九、二七九	九〇二
▲租税合計	二二一、二七二	一九八、三七一	二二、九〇一	八九六

◎一期府税徵收狀況

大正六年度第一期戸別税其他特別税の徵收狀況を聞くに去年度に對比すれば極めて良好なる成績を示せるが之れ一面府當局が檢目押捺等新企畫と共に督促滯納處分の手續きを比較的短時日に執行する事に努力せる結果に據る事ならんも京城府民の納税觀念幾分發達せる事を示すものと云はざるべからず本年度第一期府税の調定濟額は總計九萬三千七百五十四圓に達し收入濟額三萬八千八百八十一圓此の收入歩合四割一分四厘を示し前年度同期の調定濟額八萬五千四百七十五圓收入濟額二萬四千四百五十二圓收入歩合二割八分六厘に比すれば非常なる進歩と言ふべし今各税目に就き調定收入濟額を示せば如左

税別	調定額	收入額
特別戸別税	二八、一九二	一〇、二七八
前年	二七、一四一	五、一八四
營業税	四九、一五二	三三、〇四四
前年	四六、〇四二	一六、二一五
雜種税	一四、二五八	三、四〇七
前年	一〇、九九一	一、三五三
花柳税	二、一五二	一、一五二
前年	一、七〇〇	一、〇〇〇
合計	九三、七五四	三八、八八一
前年	八五、四七五	二四、四五二
收入歩合本年		四一四
收入歩合前年		二八六

而して以上に對する納税延人員は調定人員五萬五千九百四十六人收入濟人員一萬四千九百七十九人にして前年同期に比較すれば調定人員に於て二千五百七十八人收入濟人員に於て八千百三十七人の孰れも增加を來せるが人員の增加に比して金額增加の少きは法人側に於て多少未納の向ある結果に基因すと云ふ

◎市街地徵税狀況

府税務課の調査に由れば府內大正六年五月末日現在京城市街地税の徵收狀況は調定税額八萬九千七百七圓同人員二萬一千百十五人にして內收入税額八萬三千九百二十一圓人員一萬八千七百十二人即ち收入未濟税額五千七百八十六圓同人員二千四百三人を算せるが此の收入歩合税額に於て九割三分五厘人員に於て八割八分六厘を示し之を前年度に對比せば著るしく納税成績良好の結果を來せる譯也

◎客月京城貿易

京城税關出張所の取扱に係る五月中當地貿易額を見るに輸移出品價計十八萬九千八百三十六圓輸移入品價百七十萬五百五十三圓にして之を前月に比すれば輸移出に於て四萬七千四百九十一圓輸移入に於て六萬九千六百七十四圓の孰れも增加を示せり而して更に之を前年同期に對比すれば輸移出に於て一萬九千三百九十六圓輸移入に於て四十七萬八千五百五十一圓の孰れも增加を來せる情勢なるが客月中米價の大暴騰は引いて滿洲粟小麥粉等の輸移入激增を示し粟六萬二千二百三十二圓小麥粉二萬四千百六十九圓の入を見四月中に比較せば粟二萬六千二百三十五圓小麥粉約一千五百圓の增なり今五月中主要輸移出入品價を示し前月品價と對照せば左の如し

	五月中	四月中
▲輸移出品		
大豆	一七、八七六	四、一七二
重石	四一、〇五五	一四、一四九
牛皮	六八、三六三	七〇、三六〇
煙草	六、五九八	五、五九五
▲輸移入品		
粟	六二、二二三	三五、九九七
小麥粉	二四、一六九	二二、六五二
砂糖	三三、七五四	三四、六五三
綿織糸	八六、三三五	六一、五八一
生金巾及シーチング	八八、三七四	八〇、三五九
晒金巾及晒シーチング	五八、五四八	五一、五一六
日本木綿	七五、八一五	五八、二一四
靴及び履物	二六、九一六	七一、七一六
洋紙	二六、一四一	三八、九三九
煙草	四六、九一二	五六、五三四

五年五月中に於ける輸移出主要品價 煙草 一二、九七六 牛皮 七二、八〇三

▲輸移入主要品價

綿織糸	二八、三三九
生金巾及生シーチング	八五、七七一
晒金巾及晒シーチング	二三、一八五
日本木綿	三九、九七〇
靴及履物	二四、八五六
煙草	五三、九二三

◎仁川五月貿易

仁川港五月中貿易狀況を聞くに輸移出六十萬五千百八十二圓輸移入二百四十八萬三千八百九十二圓合計三百八萬九千六十四圓にして四月に比し輸移出に於て十一萬六千八百五十七圓減輸移入に於て二十三萬七千五十二圓合計三十五萬三千九百九圓の減を見るに至れり此れ夏物の仕入れ及び米の移出一段落を告げ米豆の移出衰へたるに依る者なるが各重要品に就いて見るに輸移出に於ては米は三十二萬にして四月に比し約十四萬圓減豆類は三萬圓にして約七萬圓減輸移入に於ては石油五千七百圓にして四月に比し三十九萬の激減したる外諸機械類及び生金巾綿織物等の減を見支那麻布は六十九萬七千圓の大激增を見たり(仁川)

◎京城附近の果樹

早春の寒氣と最近の旱天と打續く不順の天候が京城附近の果樹に如何なる影響を與へ居るやと云ふに蘇島龍山地方を通じ葡萄水蜜桃は甚だ不作にて到底良品の市場供給は出來まじとの事なるも林檎及び梨は必らずしも世評の如く作柄惡しからず花附きより實生りの狀況は相當の出來榮を示し居る由唯苹果の選品は或は之れを見難かるべし

◎京城手形交換高

五月中における京城手形交換高は四萬四千五十五枚金額九百七十四萬五千圓にして一月以降の累計は十八萬八千二百〇一枚其の金額四千零八十二萬五百八十六圓に達したり

◎京畿昨年戸口

大正五年末現在に於ける京畿道管內現住戸口調査狀況を聞くに內地人男四萬八千三百八十七人女四萬四千四百四十七人戸數二萬四千九百三十四朝鮮人戸數三十二萬二千九百零六男八十四萬九千四百二人女八十萬九千四百二十四人支那人戸數千零十六男三千四百三人女六百六十一人其他の外國人戸數百五十男百八十二人女百七十四人にして合計戸數三十四萬九千六男九十萬一千三百七十四人女八十五萬四千七百六十人總計百七十五萬六千八十人なり而して內京城府は內地人戸數一萬七千六百九十九人口六萬七千三十朝鮮人戸數三萬九千八百二十三人口十八萬三千八百十六支那人戸數四百五十一人口一千九百十五其他外國人戸數百九人口二百五十七計戸數五萬八千零八十二人口二十五萬三千零六十八也

◎官鹽大增收

廣梁灣鹽田に於ては春期の製鹽極めて順調にて既に四千萬斤の採鹽を爲し前年同期に比し七割の增收を見たりされば本年の豫定量六千二百萬斤は恐らく雨期前に製造を了すべく鹽田築造當初の理想たりし一億斤の製造は本年に於て實現するに至るべし而かも本年は一面製鹽作業に大改善を加へたる爲め品質著しく向上し本年製の二等品は昨年の一等品を凌駕するに至り昨今は既に販賣の一季節經過後なるに拘はらず注文續出し甚だしきは支那商人よりも購入の申込を受くるの狀況なり

◎詩文書畫擬科大會

有力なる鮮人文士等の發起に係る詩文書畫擬科大會は愈々來十七日(日曜)獎忠壇にて開會するが此は京城に於ける白日場の嚆矢とも云ふべきものにして式は全然朝鮮古來科擧の方式を摸擬し以て一般新進の鮮少年に古習の如何なりしかを實見せしめ併せて少年興學の資に供せんとする計畫なり雲養金允植子、東農金嘉鎭男以下諸科の試驗委員は總て現代第一流の文士を網羅したるものにして發表後未だ幾日ならざるに全道人士の響應頗る盛んなるが尚ほ此の盛擧に對し總督府よりも多大の後援を與へ長谷川總督は特に多額の金品を當日の費用として寄附すべく又山縣政務總監以下多數の文武高官の臨席ある筈なり

◎家屋税と督促

京城府管內大正六年度第一期家屋税の法定納期は既に五月末日を以て終了せしが府當局は組合議員改選其他官民多忙の爲め督促狀の發付に幾分遲延を來し十日約三千通の督促狀を發送したる筈

◎灌漑事業許可

黃海道黃州郡を貫流せる黃州川の水を利用する灌漑事業は其の餘澤を受くる灌漑範圍又宏大にして從來矚目されつゝありしが今回長野縣諏訪郡平野村今井五介氏の出願に由り揚水機を備付け二百二十五町歩を灌漑面積とする工事は來る八月三十日竣工の豫定を以て許可ありたりと

◎鮮人職工渡航

福島紡績株式會社飾磨支工場募集の鮮人工女三十六名及び下關出稼鮮人夫五十五名は八日夜出港高麗丸にて內地へ向へり(釜山)

◎仁川短信

▲洞里總代新設 仁川府にては檜野府尹着任以來鮮人に對し法令の趣旨を周知せしめんとて法令周知會なる者を每月一回宛開催しつゝ有るが今回更らに此れが目的を徹底せしむると共に公共事務の發達を計らんとし洞里總代なる者を設くる事となり九日正午各洞里より重立者十數名を府廳樓上に召集せり

▲學校組合會初召集 仁川學校組合會は十二日午後一時初召集せらる可く議事は大正六年度追加豫算に關する件、會計檢査委員選擧の件、組合規約改正の件等にて閉會後例に依り懇親の宴を催ほす可しと

◎釜山先月貿易

釜山港に於ける客月中の貿易額合計は四百〇七萬三千七百四十二圓にして之が內譯は左の如し

當月輸出及輸移出額 一、〇五九、〇三四圓
前月同 上 一、一〇九、九一九圓

當月の輸出は前月に比して五萬〇八百八十五圓を減ぜり

當月輸入及輸移入額 二、〇一四、七〇八圓
前月同 上 二、一二六、三五九圓

同上十一萬一千六百五十一圓を減ぜり而し當月の出入對照は輸出に於て僅かに四萬四千三百二十六圓を超過せるに過ぎず重なる貿易品にして前月との比較增減を示せば輸出に於て▲米は當月輸出額五十五萬六千五百二十六圓にして前月に比して十一萬九千七百二十九圓を減じ▲大豆は同上五十八萬〇八百八十六圓にして同上七萬五千二百二十九圓を增加せり以上は何れも相場及び輸送上の關係に因るものにして別に異なりたる理由を見ず▲肥料は前月に比し當月は約倍額八萬四千三百四十四圓の多額を示せるは魚類〆粕殊に鰯漁期に在りしを以てなり▲棉花は前月の九萬圓以上に在りしに當月は四萬七千七百二十九圓約半額に減ぜり之れが理由は源綿工場に於ける製出高の關係にして此く減額を來せしものなるべく▲繭は春夏蠶の端界季なる爲め前月の八萬圓餘に對して當月は四萬七千七百二十九圓なるを以て約四割を減ぜり▲其他一般輸出貨物は前月と比して大差なし輸入に於て▲米は前月僅かに六千餘圓の輸入なりしに當月に至りて俄然五萬八千百十七圓約十倍の增加を示せしは米價騰貴の爲め暹羅碎米の輸入を見るに至りたるものにして近年稀なる狀況なり▲砂糖は九萬五千二百八十八圓を輸入せるが前月に比して一萬四千圓を增加し▲綿絲糸は十一萬一千九百十五圓にして季節關係より同上八萬一千餘圓を減じ▲日本木綿も十萬三千二百〇二圓にして同上六千圓を減じ▲生金巾及シーチングは追々需用季節に入りし爲め十萬三千百三十八圓を輸入し同上一萬七千餘圓を增加し▲機械類は前月二萬五千餘圓に對して當月は五萬二千八百餘圓約二倍の增加を示せるは主として發動機の部分品輸入の增加せる一時的現象に過ぎず▲石炭は六萬二千五百六十八圓を輸入し前月に比して一萬四千圓を增加せるも別に深き理由あるにあらず▲其他は一般に前月と大差なし(釜山税關調査)

人事消息

▲有近權左衛門氏(實業家)▲早瀬完二氏(同)十日朝退京

風言北語 (コロロ)

英語で諷意的の新聞をフォース、エステートと云ふ▲之れは皇帝上院下院に對して第四の政治機關をなすの意味であるが軍國主義の獨逸では新聞を第四武器と云つて居る▲今次の戰爭に獨逸が各中立國に於て此の武器を使用し盛にプロパガンダを遣つて居ることは人の知る處である▲戰爭に於ても外交に於ても將た國內の狀態に就ても絶へず獨逸は有利な記事と意見を喧傳するに努めて居る▲其の中央局は獨逸外務省にあつて前駐日公使ハンム男が局長である▲駐外公使の機關新聞が少くとも各國に一つあつて獨人經營の銀行や商店が其の財政を維持して居るが▲戰爭開始と共に獨政府は幾千萬圓を投じて新聞の買收と擴張を行ひ▲和蘭、西班牙、瑞西、瑞典、米各國には此の種の新聞が殊に澤山ある相だ▲其の黑表は米國秘密探偵局で近頃出來上り意見と共に發表されたが▲新聞を第四の武器とする處などは矢つ張り獨逸だ▲東京の辯護士に山崎今朝彌君と云つて米國伯爵と云ふ綽名で通つた人がある▲其の名刺の肩書と來たら實に天下一品だ▲先づ法學博士、醫學博士、文學博士其他いろ〳〵と刷り込んであるが▲まだ物足らぬと見えて『英、佛、獨、羅典其他各國語に通ず』と迄印刷した上に▲未婚者なりと二箇所にも刷り込み財產百萬兩とやつた處は氣の小さな者が見れば氣絶でもし相なが▲何ぞ知らん未婚者どころか妻子があつて百萬兩は愚か靴を買ふ金がないと見えて洋服に下駄穿きだと▲隨分思ひ切つた人と見れる

地方

大邱 ▲驛長交迭と著發 大邱驛長たりし古川國治氏は今回新義州驛長に轉任を命ぜられたるが[illegible]驛長は九日午後一時十三分發北行列車にて[illegible]赴任せり▲[illegible]會議終了 [illegible]臨[illegible]總會[illegible]にて開催中なりし[illegible]の兩日中それ〴〵歸任の筈なりと▲議員有志懇親會 大邱學校組合新舊議員並に大邱有志新聞記者等は九日[illegible]▲發表 [illegible]城方面に向ひたるが來る十七日歸任すべしと▲普通校兒童數 慶尚北道管內公立普通學校兒童總數(大正[illegible])[illegible]夜學校國語[illegible]校等に在學中の鮮人生徒數は約二[illegible]に達すべしと▲魚市[illegible]中に於ける大邱魚市[illegible]賣揚額[illegible]

開城 ▲外人教育會 既報の通り在鮮宣教師教育會は七、八兩日當地好壽敦女塾內に於て開會せしが[illegible]▲旱魃被害 春蠶は昨今四眠位の處なるが今回は成績良好なり[illegible]ては既報の如くなるが麥作は[illegible]

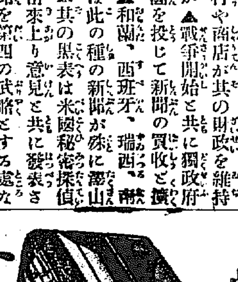
◎張蒙自動車運轉 張家口[illegible]不可能にて一般非常に苦慮し居れり[illegible]遭遇しつゝ十餘日を經て辛うじて庫倫に安著したる旨報知ありたるより同志者等は直に會合を開き今後の進[illegible]

今回京城學校組合議員選擧に際しては多大の御同情を賜はり御援助の結果多數を以て當選仕り候段難有奉感謝候此段以紙上不取敢各位へ謹告仕候也
大正六年六月十日
東亞牧場主 肥塚正太 蓬萊町四ノ六

今回京城學校組合議員選擧に際しては多大の御同情を賜はり御援助の結果多數を以て當選仕り候段難有奉感謝候此段以紙上不取敢各位へ謹告仕候也
大正六年六月十日
荒井牧場主 高山孝行

絣へ 井上お傳印 久留米絣
縞へ 天狗印 久留めゐま
御申越次第見本進呈
久留米市通町 國武合名會社

帝國製麻株式會社 東洋木材防腐株式會社 製品
朝鮮特約販賣店 京城府龍山元町二丁目五十七番地
村松武八商店 電話二六番
營業品目……麻、綿、ズック、ダック類販賣 和洋麻綿毛織物及製作品、鐵道貨車雨覆請負 天幕、雨覆製作請負、並にズック製作品一式
特許品(木材防腐劑) クレオソリーム クレオソート 東洋木材防腐株式會社製

蠅を全滅する重寶なる機械

第一號 金三圓十錢
第二號 金三圓三十錢
京城本町二丁目 熊平支店 電話長六二四番 振替京城一二二番
御座敷用として體裁頗るよし

榮養ヲ增進シ 精力ヲ旺盛ニス
グリコナール錠
本品ハ醫學博士佐伯矩先生ガ創製セル榮養劑ニシテ五〇%ノグリコゲーント蛋白脂肪、越幾斯分ノ適量ヲ含有ス
一般虛弱、心臟機能衰弱、胃腸病、結核其他慢性病者等濃厚滋養料ノ充足ヲ要スルモノニ對シ榮養ヲ增進シ精力ヲ增加ス 百錠金壹圓＝各藥舖ニ有リ＝說明書進呈
東京室町 三共株式會社

松の名所の 繪の如き風景を厭かず眺め給ふ 李王殿下舞子御著

◇◇異彩を放つた朝鮮女工の奉迎◇◇

數日來の霖雨は十日午後三時過ぎ霽れて淡路島手に取る如く海波靜かに白帆の往來する樣繪の如く美しこの日有資格者、明石農學校小學校女子師範學校生徒、儀仗兵等は驛前に堵列して李王殿下の御著を待ち受けたるが斯くて午後六時三十分となるや先頭に國旗を樹したる臨時列車は靜かに舞子驛に到著す兵庫縣知事内務部長以下多數の文武高官等はプラットフオームに於てお迎へ申上たるが殿下は聊か

✿お疲の模樣もなく殊の外御機嫌よく下車、特に設けたる棧橋を徒歩にてプラットフオームを驛前に出られ見上ぐるばかりの大鳥居を眺められつゝ自動車に召され知事以下扈從の上沿道を有栖川宮御別邸に入らせらる天空に烟花叢き暮近き舞子の絕景得も言はれず殿下は別邸に入らるゝと共に御居間より

✿海の景色を賞覽せられつゝ朝鮮料理を召されたり長谷川總督等は萬龜樓に投宿したるが殿下は陸軍大將の御服裝にて斯の如き長途の汽車旅行は初めてなるにも拘らず何等倦ませらるゝ事なく沿道の風光を賞されしと言ふ奉迎者中には

✿朝鮮服を附けたる明石紡績勤務の鮮人女工を多數見受けたり夜は更に煙花數十發を打ち揚げて旅情をお慰め申上げ兵庫縣よりは特產品並に農事試驗場產の苺を獻上したるに甚くお氣に召したる模樣なりき明石紡績勤務の鮮人女工は總數百餘名ありて八歲位より三十歲位迄なり何れも朝鮮婦人の服裝にて奉迎したるは美しかりき因みに前記の外明石郡よりは特に大盥に

✿潑溂たる生鯛數尾を放ちて御覽に供したるが是又頗る御氣に召したる模樣なりしと（舞子にて中谷特派員發電）

歐洲見學の好時期

機械の戰爭＝工業の獨立は肝要 戰爭と狂人之れ研究すべき問題 斯波、今村兩博士は斯く語る

十日夜南大門著の京義線列車で歐羅巴から歸朝した工學博士と醫學博士を二人迎へた、一人は機械工學の博士、東京帝國大學教授の斯波忠三郎男と今一人は京都帝國大學の教授今村新吉博士であつた、二博士からポツ〳〵伺つた談に曰く『われ〳〵は

✖昨年七月米國 へ廻つて出發五月五日英國を出て那威のベルゲンに渡つた、歐羅巴のこのごろは何處も戰爭で一生懸命になつてゐる互に國の存亡を賭して戰つてゐる、內地の人は頗る暢氣相な戰爭のやうに誤解してゐるが實地を視ると頗る緊張した氣分に打たれざるを得ない現に巴里なぞでもゴロ〳〵歸休して遊び廻つてる兵士もあるがそれが

✖期限が來ると サッサと出て行く、一口に云つて見れば暢氣な眞面目とも云はれるだらう……』

また斯波博士曰く『私は機械屋だがこれからの戰爭はいよ〳〵機械の戰爭だね、日本人は日露戰爭當時の經驗をもつていつまでもあの通りだと堅守してゐると飛んだ目に會ふぞ、何しろ槍でおつかけた時代とは

✖譯が異ふから 大に奮發しなくては不可ない、英法なぞは驚くべく莫大な軍需品がズシ〳〵機械の力で出來つゝあるが工場といふ工場はみな兵器軍需品の製作に働らいてゐる、それに戰爭に無關係の機械類は一切輸出を禁止してゐるので日本なども奮發しなくてはならぬ、自作自給は

✖總ての點に必要 だが工業の獨立が最も肝要だね……』次に今村博士はニコ〳〵しながら『ほんとに今はあらゆる方面の人が見學すべき秋だと思ふ、私なども狂人の方を視て來たがそれでも却々面白かつたよ、あちらでの大戰による狂人は非常なもので患者はみな戰線から鳥渡後方に置いてゐる、尤も最初は總てを後送した相だが頭日では輕い患者はみな

✖砲聲を聞かせ てゐる、戰爭と狂人、これは研究すべき事柄だがその原因は戰爭でなくとも起るべき素質があつて起きたのが多い殊に梅毒や飲酒に由る狂人の如きは戰爭でなくとも當然起るが然し頭日歐洲で多いのはヒステリー性の狂人である、彼等は手足が不自由になるとか視力や聽覺を失ふ者などとかく〳〵だがこれは中世紀に狂人を產でから

✖以來の新現象 である……』汽車が龍山に近づいた、兩博士はいふ『頭日の歐洲は是非多方面の人が視て來なくては不可ぬ殊に面白いのは社會問題だね、此の夏は瑞西で歐洲社會黨の大會を開催するさうだが……早く日本人が方々を視に行くがよい、徒らに骨董をひねくり廻す秋ではない……』

嘉義丸 接觸 乘客船體無事

九日午後一時門司を發したる大阪商船大連航路船嘉義丸（三千五百九十噸）は豆文島の北多浪島附近にて十日朝午前五時濃霧の爲め接觸せりとの無線電信到著せり乘客船體には異狀無かる可し（門司特電）

長距離飛行中止

所澤各務ヶ原間長距離飛行は雨天の爲め中止されたり（東京電報）

女の髮斬りは内地人の曲者

大邱にては昨年末頃より夜間通行の日鮮人婦女に對し怪しき眞似をなし或時は女の命よりも大切にする毛髮を切り取る怪しき男の徘徊するより俗に『髮切り』と稱して婦女子は恐れを抱き夜間市中を通行する者尠く大邱警察署は夜中變裝

▲巡査を密行 せしめ、檢擧に苦心すること久しかりしも更に何者の所爲とも判明するに至らざりしが偶々五日午後十一時頃東城町一丁目煙草商木内松之助の留守中同人の妻ひさ（二三）一人褥に就きたる折柄表戸を叩き起して朝日一個を求めたる男あり十圓札を出し剰錢を要求しつゝ少しく話したき事もあればとてつか〳〵と奥の寢室に入りたるよりひさは大いに驚きたるも素知らぬ體を裝ひ密かに斯くと近所なる東城町巡查派出所に屆け警官は

▲直ちに現場 に赴きひさを待ちつゝ寢室に居たる男を拘引したり此曲者は香川縣綾歌郡堀出町生れ當時大邱南城町信託業松野賢（二八）と云ひ目下大邱署司法主任警部の係にて取調べ中なるが昨年末以來各所に於て夜中多くの婦女に對し怪しき振舞をなし今回も前記ひさに對し同樣の手段に及ばんとせし旨自白したる由髮切りも多分此男の所爲なるべくと目下嚴重に取調べを續け居れり（大邱）

稀代の豪勇 大豹を捻ぢ伏す

咬みつかれた一名は死亡

平北義州郡新平面檜谷洞農崔雲瑞（二七）は六月二日午後二時頃五町許りの山中にて草刈り中一頭の大豹現はれ同人に飛び蒐り頭部其他數箇所に重輕傷を負はせたる悲鳴の聲を聞きつけて附近に居合はせたる同洞の徐有煥（三）が驅付けたるに暴れ狂ひたる豹は有煥の右手に咬傷したるが同人は稀なる强力者とて左の手にて豹に組みつきて捻ぢ伏せて格鬪中驅けつけし崔斗星が豹の腹部に鎌を打ち込み多數の者等集まりて遂に件の大豹を撲殺せり雲瑞は頗る重態にて生命覺束なく徐有煥は生命に異狀なかるべしと

寺僧を縛り上ぐ

慶北聞慶郡上那面大上洞黄健周（三）尙州郡下東面柏谷里金先澤（三）金泉郡釜項面沙等里洪雲鍾（三）の三名は五月二十日夜金泉郡代項面周禮洞三聖庵に侵入し寺僧李貴一（六）等家人悉くを縛し現金三十圓を强奪して逃亡中此程大邱署の手に三名共檢擧さる

一族二十三名 共謀しての放火

平北熙川郡長洞面新洞農金伯壎（三九）外二十二名の親戚一同は先頭一族中の或る者が一般親族には秘密の裡に祖先の墓地にある杉の立木百三十九本百餘圓を無斷にて平南新安州緒方文太郎に賣却し緒方は之れを切り出して熙川郡東倉面石浦洞の小川端に積み置きしに前記二十三名の者は五月二日其の松材に放火して全燒せしめたること此程に至りて發覺し熙川憲兵分隊上洞派遣所に引致して目下取調べ中なりと

大金を囮に騙取

自稱慶北達城郡月背面滿月洞鍮食器製造業在明事李學奉（四）は鮮内各地の食器製造業者を訪問し其の製法、原料の撰擇方、鑑定等を說明しつゝ三月二十七日京畿道開城松都面南本町白樂淵方にて安城郡邑内東里洞の金永軾に對し眞鍮類を開島に持行けば莫大の利益あり共同にて營業すべしと勸め自己の所持金一千七百圓を示して信用せしめ共同資金名義に同人より二百圓を捲上げ忠南大田春日町食器商金治文よりも同樣手段にて六百五十圓を騙取して姿を晦ましたりしが此程慶北慶山警察署の手に逮捕されたり

仁川築港記念祭

既報の如く十一日は仁川築港起工記念に相當するを以て仁川土木局出張所にては例年の通り仁川神社に於て記念奉告祭を營むべく當日は午前十時永井署長各係主任仁川大神宮に至りて奉告祭執行十一時職員全部の參拜あり十一時半より築港事務所に於て官吏服務規律及び同心得諭讀式を行ひ之れにて記念式を終り直に茶話會に移る筈なるが午後は職工及び人夫の慰勞會を催ほすべく設備は構内に運動場を設け相撲及び各種競技を爲す外素人演藝等もある由尙築港に就ての一般の縱覽は午前九時より十二時迄許可すべく縱覽者は成る可く監視詰所前に集合し居られたしと

南米倉町の小火

九日午後六時十分頃京城南米倉町三十一番地飲食店李昌鉉方煙突より飛火して藁屋根に燃え移り大事に及ばんとせしも附近の者集まり屋根を燒きたるのみにて同二十分消止む損害輕微

開店披露宴

市内太平町多田信託所跡に移轉開業せる皮膚花柳病專門の星川醫院々長星氏は八日夜知近同業者多數を招待開業披露宴を催したるが却々の盛會なりしと

神社とお寺と教會

○本能寺（本町）十二日午後八時より定期婦人會十三日午後八時より木門會ありて會員の日蓮主義研究會說明諸師の（安國論）の講義あり

○波身院（旭町二丁目）六月十一日午前十時より大梅の日脚絆加持祈禱會あり

○西本願寺別院（若草町）十一日午後八時より月曜講演

えんげい

小糸來る

九州内外と言はるゝほどに達者なる娘義太夫竹本小糸一座は[illegible]より鮮内各地巡業中なりしが今回來京[illegible]に開演せり、一座は小糸を眞打として小清、小菊、小しづ等にして三味線には[illegible]の外に[illegible]

◇◇おすしにお團子をたべながら◇◇

日出小學校の可愛らしい同窓會

◇これは日出小學校の女子部の同窓會です、學校は明治卅三年に出來ました、その時の卒業生はモウいゝかげんなお母さんですが十日の會には少さい可愛らしい人ばかり集りました、女ばかりの美しい會、男とては先生ばかりでありましたが、只鍾路の山中女先生が開會の辭を述べられたのも感興深きものでした、それは先生が日出の出身者の故であります

◇會長河合先生の御挨拶が濟みますと、それからは面白い餘興のとり〳〵、唱歌の合唱や、對話の可愛らしいのや活人畫などは大變よろこばれました、獨唱の『子守歌』には今年卒業の天才が小鳥のやうに謠ひました、金剛石の活人畫では天使のやうな少女が出ました、對話の『新入生』といふのは可笑しいのでみんな笑ひこけました、『夜の五條』といふのには少さな牛若丸が出て來ました、それに仕舞の『東北』では先生が地をつとめ眼鏡の少女が美事に舞ひ納めました、其の他勇ましい『白虎隊』から『お爺さんお婆さん』の合唱、などがありました、お午は團子とおすし、みんなお美味相にたべました、寫眞は時代風俗に模した少女のお花見といふのであります

腦良病藥 レーベン

岡田博士を初め森、日向、飯島、福田、内田氏等十有餘名の諸大家か有効者明或は推奬せらる・本品は最高貴燐酸の營養素リンサンを多量に含有する無比の良劑なり故に腦病、神經衰弱、頭痛、眩暈、不眠、記憶力減退等の腦病患者は最終の試として本劑を服用あれ、レーベンは容積と體裁を貴らず服用量極めて少くして効顯極めて大なり

藥價（三十錢・五十錢・一圓六十錢）（八十五錢）

東京銀座弓町 電話京三〇八番 中南定太郎 振替東京七七〇番
大阪安土町堺筋 電話本三〇〇七番 中南定太郎 振替大阪三四四番
御用ある藥店に有り無ば直接注文乞ふ

酒煙草きらいになる藥

禁酒丸 禁煙液

どんな酒煙草のみでも害なく心から嫌いになる郵券二錢送れば說明書及大澤博士の禁酒禁煙論進呈

其他名士の
本舖 大阪西區靭南通二 森田商店

水銀販賣 白上商店

鑛區買入

銅鐵鉛 亞鉛鑛 鑛區買入致候
但許可權先願權及新發見共
右希望者は直接御申込相成度候
京城旭町一丁目一〇三番
三友鑛業事務所 電話九五五番

果羊羹

京城本町 電話四七五 二七 龜屋商店

蠶繭 生糸、屑物 高價買入

龍山漢江通入番地
河原繭糸店 電話長四二番

一切右外四種右購買ス詳細ハ六月拾壹日以後ノ朝鮮總督府官報ヲ見ヨ

朝鮮總督府

懸賞答案募集

問題

（一）左に圖出したる健胃固腸丸の五文字に振假名を付ける事
（二）健胃固腸丸の重なる効能は何なる乎
（三）此廣告を見たる新聞名

懸賞品

一等 銀側腕卷時計 一箇ヅヽ 五人
二等 上等萬年筆 一本ヅヽ 三十人
三等 大阪名所案内寫眞 一枚ヅヽ 千人
此等級は正解者の内より新聞社員立會公平なる抽籤を以て定む

登錄商標
大日本大阪市東區伏見町二丁目 健胃固腸丸 本舖 回春堂 谷新助

答案規定

▲以上一二三の答は郵便はがきに認め大阪市東區伏見町二丁目谷回春堂懸賞係り宛御郵送の事
但當選通知希望の方は往復はがきを用ひらるべし
▲解答期限は大正六年七月末日限り
▲當選は一二等に限り八月中新聞に掲載す

登錄商標
下痢病と腹痛を治す
健胃固腸丸
藥價 十錢、二十錢、五十錢、一圓、三圓、五圓
常に用ゆれば腸胃を丈夫にし惡疫に罹る憂なし

本舖 大阪市東區伏見町二丁目 谷回春堂

眼科專門

京城本町四丁目カルヽス温泉横（電一五五六）
日曜祭日午前中
金井眼科醫院 金井豊七

内科 小兒科（入院隨意）

京城櫻井町（電一二七一番）
池上醫院

御佛具調進所

京城本町二丁目七七（旧南山町四）
小倉佛具店
電話一五七一 振替京城三九五二

資本金壹百萬圓

京城 株式會社 漢湖農工銀行 支配人 遠山熙

不動產抵當ニテ長期低利ノ貸出致候
支店（開城、春川、大田、江景、公州）所在地（清州、忠州、論山、鐵原、鳥致院）
普通銀行業務は確實親切に御取扱可申候

長（[illegible]郡長）は八日午後四時四十五分著列車にて著任したるを以て一切の引繼ぎを終ると共に古川[illegible]

花筐 かたみ （三三）

松田竹の島人作

微風だにないので、一碧の海毯に、相州逗子の海岸には、白沙を洗ふ波濤もなかつた。

弓形に彎曲した海の右手は、小高い山で、萌黄に緑をとき混ぜたやうな新緑の色が、初夏の日光に冴ゐてゐた。其山裾には、浪子不動の堂宇が建ち、巖壁の棧道を往く參者が、豆のやうに小さく見ゐる。左手は波動狀の山で、其尖端は海へ突き出て江の島の青螺と相對してゐる。

山と、海との佳い眺望を、座ながら一眸の中に納むる、海岸の某別荘に居るは京子であつた。

炊事は、雇ひ老婆の手に由つてされ、金錢には何んの不自由もないので、氣樂に其日を送つて往かれるが、夫を捨て、子を捨てゝ家出した其心の中は、言ふに言はれぬ惱みがあつたのである。心の惱みを、何にかに由つて紛はさうとして、新聞を讀んで見ると、傷氣な女の兒の記事でもあると、それに直ぐと目が著いて、我が兒のことが思ひ出される。最う自分が家出したことを、子心にも聞き知つて、逢ひたがつては居ないだらうか、此頃の時候では、蒸暑い夜もあるから、若しか夜具を脫き出て風邪を引くやうなことはなからうか杯と、親心の子を案じては、止め度もなくそれからそれへと走つて、其氣苦勞といふたらなかつた。又夫は自分が家出した爲めに、後悔して幾らか不身持を直したか、それとも不埒な婦人と慣つて、彼の彌吉の女を娶として入れるやうなことはなからうかと、夫のことにも種々と思ひを運ばせてゐた。

一天晴れ渡つて、風もない清々しい天氣にも、京子は頭腦が重苦しく堪へられなかつたから、庭口からふらりと海岸へ出たが、青緑の山景色も、廣い海の眺めも、心に惱みある京子には、更に爽快な感じが爲なかつた。

偶、鴉が二羽、海邊に舞ひ降りて白沙に紅葉のやうな足跡を印しつゝ其處らを歩行いてゐたが、一羽が何にか啄むと、それを啣へて、他の鴉の傍に寄つた。すると一種甘へるやうな鳴き聲を立てゝ、翼を擴げると啣へてゐる何物かを喰はせた。これは親鴉が子鴉へ哺むのであつたから、京子は直ぐに、拭ひ切れぬ暗愁が、睫毛の上を掩ふて來た。鴉さへ彼のやうに子を愛がつてゐるに、自分は可愛い花枝を捨て、此逗子に隱れてゐるが、自分程子に邪見なものはない。夫は憎いけれど、花枝は可愛い。一層のこと、東京へ歸らうか、歸つたら夫の心を撓め直さうと、悲しい思ひを爲て、今日まで過ごしたのが、何んの効もないことに爲る、そして親切に爲て下さる田淵さんへ濟まない。最う思ふまい、考へまいと、心を取直して、往く的もなく波打際をぶら〳〵と歩行いた。

直ぐ前に、洋館の別荘があつたが、其庭口からちよこ〳〵と小走りに走つて出て來たは、五歲程の女の兒で、其蹤に乳母らしい四十前後の婦人が跟いてゐた。其女の兒は、砂の上に蹲踞んで、紅葉のやうな手で、沙を弄り出したが、頭は黑い艶々しい毛を、お河童さんに下げて、ぱつちりとした眼、ふつくらとした頰、そして唇は花の蕾のやうで、其愛らしさといふたらなかつた。

京子は、最う吾が子のことを思ふまいと、心を取り直してゐたが、今目の前に、吾が子と同じ年頃で、然かも同じやうな愛らしい女の兒を見ては、又もや花枝のことを思ひ出さずには居られなかつた。

其女の兒が、蹲踞んでゐる背後つきが、宛るで吾が子のやうであつたから、心の迷ひは、吾が子が此處に來てゐるのではないかと思はれて、吾れを忘れてずか〳〵と進み寄た。

此時、突如に脊後から、

『京子さん』と呼んだものがあつた。

一日一句

花中自ら閑ながらんやと、同人の誰彼を唆かし、斯かる試みを初めつ、果して何時迄續くやら　(瀨村投)

鉢蒔こどんで見る起きはけの楊子　黃丘
遠忌果てし日高札に櫻ちる　梅子
古硯愛す春雨の煙る窓　雄川
春の窓うと〳〵と地搗歌聞く　魚骨
菖蒲賣りの佇なる見過く街の雨　瀨村

新刊紹介

▲新公論（六月號）五月號發賣禁止の後を受けたる本號は活氣頓に充溢し內容益々豐富に且つ精選せられ來りしは喜ぶ可し社說には臨時議會と下院各派、言政の根本義、物資禁止に就て等あり法學博士副島道正氏の歐洲戰後に於ける經濟社會の民主化と題する長論文は經世家必讀の文字にして若宮卯之助氏の政治的進步の基點は政治哲學上の一大權威たるに足る其他君島工學博士の運河政策、安岡秀夫氏の稗史に現はれたる支那國民性、鬼谷先生政界鬼語、天川道人の支那復辟論と其周圍、石野隆氏の文人漫論、島中雄三氏の代議政治の技術化屈田理學士の純正化學と應用化學、笹川臨風氏の藝苑私語等新聞記者になつてからあり、人物月旦には鱗游、啓劍師阿羅漢諸氏の上院各派の領袖評あり情話には田山花袋氏の小雨ふる日、小說には秋庭俊彥氏の戀礎來原萬猫圍氏の奴鹿の子何れも讀む可く、尙ほ本誌獨特の萬報一覽あり小說月評あり劇評あり歷史和歌俳句ありて賑はしきこと比上なし（二十八錢東京京橋區加賀町十八共社）

▲新小說（六月號）小川未明の小作人の死長田幹彥の石路の花里見淳の或る年の初夏に及ぶ近代文學と新犯罪學大杉榮 我が言はんとするところ（森田草平）現代俳優情話嘘の戀か誠の戀か（川尻清潭）矢島楫子氏と婦人矯風會の事業を論ず（平塚らいてう）及び時事に關する論文數種（三十錢東京日本橋四の五春陽堂）

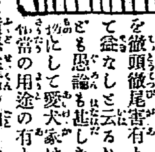
▲面白俱樂部（七月號）本誌は低廉なる價と優雅なる體裁と充實せる內容とを提げて社會の歡迎を博しつゝあるが七月號には時雨女史の『桂川心中』不非晩村氏の『悲壯人武田伊』天子氏の『相馬大作』等一流大家の手になる苦心の傑作を載せ、讀者の熱願措かざる本田美禪氏の『八百屋の娘』け傑作等に入り、其他大河內翠山氏の『安政五人男』林文左衛門の『落語馬鹿作』あり尙演藝雜錄には古今風流面、超短ロマンス、少年少女欄、婦人寶帳、新聞の新聞、學校及び學生、名流逸話珍聞等を收む（十錢東京市本鄉區駒込坂下町四八講談社）

▲美術及工藝（一ノ二）朝鮮に於ける古美術及工藝、地理、歷史、風俗等を研究せんとするものにして本號には美術趣味と家庭（丸鬼男）樂浪の古墳と發掘品に就て（勅使河原健之助）朝鮮の佛像に就て（末松熊彥）支那の遺物に現はれたる朝鮮の工藝美術（上田恭輔）朝鮮傳來の陶器の目利に就て（宮澤清香）其他雜錄、彙報等の各部門より成る（三十錢京城南米倉町一〇東洋美術協會）

▲懸葵（六月號）俳句の沿革に就て（藤井啓士）芭蕉論に就て（松本彥次郎）美醜彼岸（稻川正）浴館一瞥（粟津水棹）其他夏季俳句等（二十錢京都松原通若上西入北門前町共賛行所）

▲鮮滿之工業（六月號）石炭採掘の取締を如何にせん歟（坪川社長）工場建築と鐵筋コンクリート（阿部美樹志）能率問題と體育問題（櫻井醫學博士）經濟的獨立と鮮滿の工業（一、野理事）及朝鮮に於ける大正五年加工品貿易の狀況、糖業發達史、有利なる地下水利用工作、出願鑛區の價値は疑問なり等（二十錢朝鮮京城旭町一の七一共社）

▲極東時報（二六）體裁を改訂し發行を月三回に改め一日及十五日發行の分は從來の如く和佛兩文を以て編輯し二十二日發行の分を純佛文とせり（日佛兩文十八錢純佛文五十錢東京々橋築地明石町三一共社）



非愛犬家諸君は犬を徹頭徹尾害有りて益なしと云はれども愚論も甚しき物にして愛犬家は常の用途の有りて飼養する物にて犢怪主君の如きは警察に或は軍隊に犬の人以上の働きを爲しつゝ有るを知らざるや其將畜犬が公衆道德に有害なる物なれば重税を課するよりも寧ろ一般に飼養を嚴禁したらよからう我輩は此際各自注意して充分畜犬を保護する責任は有るが貴公等の如き自己主義の脫線論者は今後の紙上を溜るを望まず今少しは名論を出し給へ（南大門一愛犬生）▲拜啓此の節は狂犬狩りや畜犬税にて讀者の領分も繁盛致候樣被缺申候畜犬樣は元來無用の贅澤物無き者十二分の課税爲して可なりと思ふ又犬取締も嚴重にして貰ひたい私の兩隣りに犬を畜ひ居り三日にあげす私の庭内に突入し花草を荒され時々玄關先きに大便をしたり實に閉口致し申候併し兩隣りの先生は平氣で少しも氣の毒がる模樣もない今度は庭內に侵入を見付け次第擊殺す考ですが御構ない者でしようか（櫻井町有權者）▲犬の喧嘩も好いが餘り長い投書には困りますから其のお積りにて（掛りの小僧）▲京城の水道取扱に對し再三注意事項が紙上に顯はるゝを見る夫れを見る每に御手前の方から改良せられ度きを思はしむ何となれば修繕の粗雜なるに驚かしむ當地は多結甚だしきを以て一層の注意を要するに內地と反對現象の事實あり而して工費は一寸の工事に澤山の人夫と職工が來て半分遊んで居る樣な有樣で夫れで半日で終了しても一日分の計算で徵收する吏員が監督するでなし全く職工委せの仕事をして居る故に完全な修繕が出來る筈がない最初の設計より安く出來上りし時は何とか方法があると見れて返さんが不審なり相手が職工で當方が留守で婦女子のみ如何なる書類に捺印せしやも調査するに由なし何とか今一層注意せられて双方の利便を計るは市民の幸福と思ふ（舊貨驗生）

山縣五十雄先生譯
小說 過去の罪 定價五〇〇 郵税〇四〇
親子の愛、兄弟の愛、主從の愛、戀人の愛、すべて人情の美を描き出したる最も美しき小說にして淚もあれば笑もあり
京城日報代理部（振替京城三〇〇）

復辟案の運命

目下の北京政府は瀕死せるが如く [illegible] 下に各驅逐されたる際に於て其氏名すら報道するものあれども之等は何れ [illegible] 時局混亂たる場合に於て復辟案を高唱するは益々時局の紛糾を招き同時 [illegible]

有望なる石鹼製造

支那の輸入杜絕と共に最近獨支關係斷絕に依り獨逸品は製造を停止するに到 [illegible] ものとしては大連爲玉洋行、滿洲石鹼製造所ある位なれば奉天島谷石鹼 [illegible]

京畿書堂狀況

大正六年四月一日現在調査京畿道管內書堂數は [illegible]

動力需要激增

一般工業熱勃興と共に市內各工場の電動力需要 [illegible] 木撰鑛場の百二十馬力にして本月末 [illegible] 工事終了の筈 [illegible] と又會社にては近來工場用動力 [illegible]

一千反限りの 縞セル 正金代用 金指輪進呈

東京流行縞セルが一反只の一圓九十五錢で買るとは染料や原糸の高き今日嘘のやうだが現に過去五年間吳服類の格別安賣で評判を取た東京日本橋區本石町壹丁目吳服問屋關谷商店が自慢の縞セルを前記の馬鹿値で投賣りしつゝあるが日々羽根が生へて飛ぶ大賣れ柄合も地質も一見高價の舶來セルに負ぬ程の上等品でタッタ一圓九十五錢特別上製二圓五十錢だと云ふ一風變つた大勉强買ぬ者は損なりけり目大奮出しの記念として先天的十八金色を有する金色燦たる不思議金指輪を一反の注文每に一個宛の無代進呈をなす由因に地方の希望者は同店宛ハガキにて男女別年齡を記し申込は柄合親切に選び代金引替送料も實費で送るとの事

八木田博士御處方 島田博士御鑑查
アナタの胃病には マーゲン

強胃消化錠
=本劑の特色=
二博士御處方の本マーゲンは在來の胃藥とは異り其卓效は根本的に胃の機能を盛んにし消化を佳くし食慾を增し胃腸を強く治し著しく胃を爽快にす
大阪市東區上本町五丁目 田畑保藥房

京日案內
普通 一回前金五十錢 番外 一回前金一圓（一號一通廿錢增し）
▲申込後の御中止の節は前金返戾せず
▲六回以上の御申込は特に割引
▲御照會の節は返信料の御同封を乞ふ

普通
●信用貸金 大口低利迅速秘密 出市內 担保貸取扱 來店又參上 黃金町一ノ一九三 朝日ホテル左金谷園横 拍室
●店員入用 十三四歲より十七八歲迄身元保證人を要す 履歷書送れ即答 江原道春川 大和屋吳服店 123
●紙漉人及紙張人數名募集す 京城（長州通り）一丁目川端 淺芹洞九十番地 京城製紙工場 119

番外
●電話讓受たし 京城大平町二の二三六 電話二八二三番へ 926
恩給 年金 郵貯 最長期 即時立替 秘密 確實融通 保證不要 商品陳列館表門下角 京城永樂町二丁目 江州屋本店 29
●各種ブラシ 製造販賣 京城明治町二丁目 東洋ブラシ商會 108

損は二十錢 利益は一生

○勉强しても事務をとつても根氣なくすぐ疲れる人夜間安眠出來ぬ人絶えず頭が重く氣が鬱し記憶力減退の人は注意せよ
頭痛・神經衰弱・ヒステリー
此不思議な程よく効く新しい藥が高橋博士監督の下に泰昌で出來ました

○頭痛と思ひ油斷して居ると
恐るべき神經衰弱にかゝつて居る頭痛は誰れでも有勝ちの事で頭痛がしても餘り痛に止める人がありませんが之が過飲消化不良、胃かたる、便秘、眼の過勞等即ち單純なる原因から起るものでしたら其原因即ち過飲消化不良、胃かたるにはゴルフ便秘にはチーカ眼の過勞にはアドラ目藥を常用せばよくなりますが其他の原因から起るものは油斷して居ると遂に取り返しのつかぬ事になります。彼の恐るべき神經衰弱、ヒステリー等の前徴はキット頭痛がし耳鳴りがするものであります。

○神經衰弱とヒステリーの初期
は自分ながら分明りませんが頭痛がして記憶力が著しく減退し本を讀んでもすぐに倦き仕事をしても根氣なく夜中安眠が不可能になつたとすればそれ明かに神經衰弱に罹れる證據で又飴かの事に氣がいら〳〵し怒り易く悲しみ易く何となくうつ〳〵として不愉快に感ずるのはヒステリーの病狀であります。

○神經衰弱、ヒステリーになると
どんな結果になるか
青年が此病氣になると、究へがだん〳〵惡くなり、元氣は消耗し成績は惡くなり、あたら前途ある身を誤るに至り、事務家は生存競爭の敗者となつて、一生出世出來ず、不運な運命に陷り、婦人は家庭の四端を缺き、遂には破鏡の嘆を見る樣になります。

○此病氣を癒す最良の方法
精神を靜かにし、早寢早起の習慣を附ける事、淸潔なる空氣を呼吸し、運動を適當にし、其れと同時に最も信用ある藥を撰擇して服用するが何より緊要であります。

○皆さんにエクレスを御勸めするわけ
頭痛、頭重、眩暈、神經衰弱、ヒステリー、ヒポコンデリー、貧血、腦充血、其他神經障害より起る病氣の藥としては世間に澤山ありますが、今度泰昌で出來たエクレスが一番効能があり且つ安心して服用出來ます何ぜなれば、エクレスは

○高橋博士監督の下に
數多の學士が、今日醫藥發賣元として、東洋第一の稱ある三共株式會社の最新藥を原料として、研究に研究をかさね確實なる効能ありと認めて、社會に發表せしものなれば、キット皆さんが不思議に思ふ程よくききます。

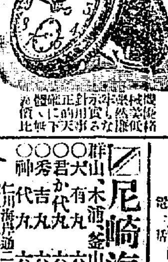
○よく効く試驗法
激しき頭痛のする時は初めに本劑三錠を服用し二時間後又三錠を服用せばすぐよくなります。

○持藥としてのエクレス
平生頭腦を使ふ人や神經過敏の人及びよく腦充血の誘因になる大酒家等はぜひ共持藥として每日服用することが必要であります。
定價は試用瓶二十錢、小瓶五十錢、大瓶一圓三十錢で全國藥店にて取次ぎ販賣して居ります。品切れの節は本舖に直接御注文あれ。

先づ試みに 金二十錢を 投じて エクレスを求めよ
損は一瓶 利益は一生

ゴルフ アドラ ピンゼリンクリーム チーカ エクレス
東京室町三丁目 本舖 泰昌製藥株式會社

月やく
たきに御困りの方は郵劵八錢封入左記に御照會あれ妙藥知らす
京城黃金町三丁目 山田しづわ

新荷著 瑞西製 懷中時計

(ニッケル側)十八形（片蓋）二圓五十錢 同十六形 [illegible] 同 ラジューム入 [illegible] 同(鐵側) [illegible] 色付彫刻各色 [illegible] 金張十年保險 [illegible] 流行腕卷時計 [illegible]
有は今回新著の商品にて本商會獨り之を有し弊店に無き所のものは弊店の隣の伏見にても御求めは急ぎ御注文に對しては代金引換小包郵便にて御送付申上候
時計、蓄音器、ミシン機械、自轉車、洋酒各國貨直輸入商 イングレッシー商會
本店 京城本町二丁目 電話九七二番

大邱浦項間自動車時間
上り 浦項發 安康同 慶州同 阿火同 永川同 河陽同 大邱著 [illegible]
下り 大邱發 河陽同 永川同 阿火同 慶州同 安康同 浦項著 [illegible]
大塚農場自動車所 大邱出張部 電話一一七番

三共同汽船仁川出帆（阿波國共同汽船）
○芝罘、大連行 關東都督府命令船
會下山丸 六月十二日午後入港 六月十四日前十時出帆
朝鮮總督府指定 [illegible]
本町四丁目 阿波共同汽船株式會社 野口商會（電話一七三番）
仁川代理店 元山代理店 田口回漕部 京城取次店 河村運送店

汽船釜山出帆廣告
○門司、神戶、大阪行 ○和歌浦丸 六月二十日後五時出帆 ○立神丸 七月一日後五時出帆
○元山、淸津、浦鹽行 ○立神丸 六月三十日後十時出帆 ○和歌浦丸 六月十九日後四時出帆
○元山、西湖、新浦、城津、淸津行 ○第三愛平丸 月　日後六時出帆
○門司、宇品、神戶、大阪行 ○第三愛平丸 月　日後六時出帆
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行 ○天眞丸 毎月二日九日十四日廿一日廿六日 午後十時出帆
釜山港埋立新町 本社取扱店 大池回漕部

朝鮮郵船出帆
本社 電話長一九五二番二二三番
當社及社外船と聯絡運送の便あり 本社支店、出張所、代理店、特約取扱店に御照會あれ
京城南大門驛前 京城特約取扱店 松原運送店（電話長一七〇番）
○江原丸 六月廿二日 ○京畿丸 六月十三日 ○黃海丸 六月十八日 ○咸鏡丸 六月廿八日 釜山發 門司より釜山各港寄港雄基間航路
○總城丸 六月十八日 ○昌平丸 六月　日 ○鏡城丸 六月十四日 元山發 元山より各港經由雄基行
○昌平丸 六月　日 元山發 浦鹽寄港長箭行
○盛德丸 六月十五日 釜山發 甘浦、九龍里、浦項各港寄港鬱陵島行
○江陵丸 ○義陽丸 每日 釜山・浦項發 長生浦方魚津寄港
○三浦丸 六月十一日 釜山發 長承浦、麗水、巨文島、濟州島各寄港
○海州丸 ○載寧丸 ○巨濟丸 ○慶寶丸 每日 釜山發 各港經由麗水行（三日目一回木浦行）
○平壤丸 六月十五日 元山發 城津淸津雄基寄港
○順天丸 三日目毎ニ 木浦發 各港經由麗水行麗水より釜山行に接續
○慶興丸 六月十六日 木浦發 各港經由濟州島行西廻
○慶興丸 六月十二日 木浦發 古多島、濟州島行月三回
○公州丸 六月十七日 木浦發 各港經由濟州島行
○麗水丸 ○晉州丸 六月十二日 六月十八日 仁川發 各港經由木浦行
○宗信丸 六月十五日 仁川發 海州他各港經由鎭南浦行
○全州丸 ○南陽丸 每日午前 仁川發 江華島、喬桐島、海州行

大阪商船仁川出帆
○外航路所屬航路（讀洋航路を除く）同汽船の乘船の時は五分引を以て運賃の割引致候
△門司、神戶、大阪行 △南都丸 六月十三日 ×仙頭丸 六月十七日 △南都丸 六月廿六日 後二時出帆
◎木浦、釜山、馬原、鎭の浦、長崎行 ×安東丸 六月廿五日 正午出帆 ×安東丸 七月十三日 後二時出帆
○橫濱行 ×瀧州丸 六月十七日 △福州丸 六月廿三日 後二時出帆
◎南浦行 ×仙頭丸 六月十四日 △南都丸 六月十日 正午出帆
◎鎭南浦、大連行 ×安東丸 六月二十日 ×安東丸 七月八日 後二時出帆
◎大連直航 ×瀧州丸 六月十六日 △福州丸 六月廿二日 正午出帆
◎西湖津新浦城津淸津行（元山出帆） 安平丸 六月十六日 後十二時出
◎淸津行（元山出帆） 須磨丸 六月廿四日 後十二時出
◎上海、芝罘、打狗行（大連出帆） 湖北丸 六月二十日 前六時出帆 大智丸 六月廿七日 後四時出帆
御注意 ●朝鮮鐵道及び南滿洲鐵道と聯絡切符發賣仕候 ●御乘船客は本船出帆約一時間前無賃送迎可致候 ●×印は一等客御斷り △印は船客御斷り
切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話二二〇番、五五八番
切符發賣所 內國通運會社京城支店 電話七〇八番
切符發賣所 仁川京城通り 朝日旅館 電話二六一番

尼崎汽船仁川出帆
群山、木浦、釜山、下關、神阪行
○大有丸 六月十二日後四時出帆 ○君が代丸 六月十九日後四時出帆 ○秀吉丸 六月　九日後四時出帆 ○神代丸 六月　日後四時出帆
電話五十九番 仁川海岸通二丁目 高杉回漕部

日本郵船仁川出帆
○大連行、太沽(天津)、牛莊行
相模丸 六月廿四日正午出帆
高砂丸 七月四日正午出帆
三河丸 六月十三日正午出帆
電話 仁川海岸町十二番 堀回漕店